

もったいない・おかげさま・ほどほどに、が環境と人間を育てる

M・O・H通信

M・O・H Journal

- to communicate and convey the message of Shiga's traditional principles of M・O・H -

特集：「原点」達人に学ぶ・衣

48号

2015
Summer



「白月」

滋賀県栗東市出身の高田学氏の作品。「白月」は数寄和^{すきわ}大津若手作家小品展に出品され、「水辺の植物」は手すきの紙に描かれています。数寄和大津ギャラリーでは様々なアーティストの絵画等を展示しています。



「水辺の植物」

●高田学

たかだ まなぶ=1978年滋賀県栗東市生まれ。1997年京都市立銅駝美術工芸高等学校卒業。2002年成安造形大学造形美術科日本画クラス研究生修了。2014年「14×18センチの絵画展」／数寄和（東京・滋賀）。京都日本画家協会新鋭選抜展 奨励賞／京都文化博物館、滋賀県文化奨励賞など。

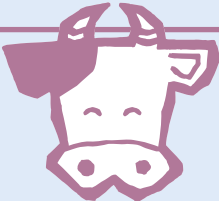
【問合せ】

数寄和大津

滋賀県大津市神領3-2-1

TEL : 077-547-3209

<http://www.sukiwa.net/index.html>



「M・O・H」のマーク=牛

牛は環境の象徴ともいえます。牛糞はメタンガスになり、肥料にもなります。大地を作り、食物を育て、生物を養います。私たちは命の源ともいえる、牛を「MOH」のマークとし、循環型社会の象徴とします。

★ M・O・H通信の役割 ★

持続可能で豊かな循環型社会を築く社会人の意識を向上するためM・O・H通信は情報を発信し交流を続けます

- | | | | |
|---|---|---------------------|----------------------------|
| M | → | 循環
もったいない | 他の生命を奪って得たものを使わせて頂く |
| O | → | 共生
おかげさま | 人は一人では生きられない、環境によって生かされている |
| H | → | 抑制
ほどほどに | 欲はほどほどに、良き環境を作り上げるために |

contents

目次

特集:「原点」達人に学ぶ・衣

M・O・H巻頭言

安物買いは贅沢買い 森 建司 …… 4

M・O・Hな酒造り(上原酒造)

伝統と自然の恵みを酒に醸して 大岩 剛一 …… 5

① M・O・H対談(鮎家)

キーワードは“滋賀らしさ” 高くても売れる商品を作る

齋藤 利彦 & 森 建司 …… 10

② M・O・Hレポート(長浜ビロード)

ほんまもんをみよう! ビロードの知られざる魅力 浅井 脩 …… 17

③ M・O・Hレポート(COMMUNE)

作り続けることで次世代につなぐ“ものづくり”としてのシャツ

久米 勝智 …… 23

④ 寄稿(紺喜染織)

藍(愛)が濃い(恋)になるとき 北川 陽子 …… 30

⑤ 寄稿(たかしま・まるごと百貨店)

綿織物の町高島市 …… 34

寄稿

しがのええもん五十三次～衣編～

「しがのええもん五十三次」勝手に選定委員会 …… 36

寄稿 一松尾寺からのメッセージ

子どもたちに大切なことは… 近藤 洋子 …… 43

M・O・H活動1 (M・O・H Cafe)

M・O・H通信読者交流会 [M・O・H Cafe2] 開催しました …… 47

これからのM・O・H活動の進め方—議論から実践へ— 内藤 正明 …… 49

M・O・H活動2 (M・O・H塾) 一非電化工房 藤村氏講演会から感じたこと

M・O・Hな未来を一緒に築きませんか? 清水 陽介 …… 52

環人ネットの活動報告～地域診断ワークショップの実践～

地域の魅力を考える 鶴飼 修 …… 55

里のお話

しきたり 三山 元暎 …… 58

漫画

山暮らし子育て日記 オノ ミユキ …… 59

心温まる物語

畑さん 今関 信子 …… 61

本の紹介 …… 63

4コマ漫画

イベント情報 …… 64

にこやか …… 68

講演日記 …… 65

通信概要 …… 69

M・O・Hニュース …… 66

読者の声 …… 70

表紙

琵琶湖の内湖で養殖されている淡水真珠。母貝のイケチヨウガイ(池蝶貝)をつかった真珠養殖技術で生み出されています。協力/神保真珠店(大津市)

「原点」 達人に学ぶ・衣



これからシジミ漁体験（野州市菖蒲浜）

私は買い物は女房に任せきりであまりしないので、体感的にはちょっと実

感が無いが、出費を惜しんで安物を買う、安い物だから安心してつい興味のあるものを、余分に買ってしまうこともあるようだ。百円ショップで「安いなあ」と感心して見て回っているうちに、「あれ、こんなものもある」「あんなものもある」と興味を

ひかれて買い物袋に一杯とまでは言わないが、かなりの量の買い物をして、多少の後悔と満足感に浸りながら帰宅する。そして後日には、後悔だけが残り満足感はなくなっている。

買い物をする時、安く買える店、あるいは安い物に集中して品揃えをしている店を選んで、節約に励んだつもりになつてい風潮があるようだ。

「良いものを選び、それを大切に扱い、長持ちをさせる」それが本来の始末

ではないだろうか。

子どもが生まれ成長していく間に、以前は親戚などからその家の子どもに着せたおさがりを頂いたものだ。子どもは成長が早いので、何年にもわたって着せられない。「もつたいないので貰ってもらえないだろうか」と遠慮がちに言って置いていかれた。可愛い子

安物買いは贅沢買い

どもに買ったものなので、なかなか良品が多く、頂いた方も喜んで着せたものである。

しかし、今は違うようだ。海外で廉価に作られた製品ばかりを並べている店で買い、「安いからいいのよ。そんな古いもの着せなくても」と、多少の流行もあるもので、一年で捨てても惜しく

ないといつて新品を着せている。

住宅、家具調度品、衣類など家の財産として残せるものは大切に、時には誇りを持って使う。「古くなったから捨てる」と言う概念を捨てて「これは、先祖から大切に使っている古いものです」と誇りを持って言える暮らし方にしたいものである。

森 建司

これは決してモノだけではない。「古いもの」「歴史の有るもの」「言い伝えられているもの」、われわれの周辺にはそのようなものがたくさんある。

「古いものに価値は無い」とする「経済合理主義」は、もはや愚論である。そろそろ目を覚まさないといけない時が来ているのだ。

何が「もつたいない」のか、二人一人が身の回りから見つけ出そう。

M・O・H
な酒造り

高島市編

〈寄稿〉

伝統と自然の恵みを 酒に醸して

—— 上原酒造

おおいわ ごういち
大岩 剛一

建築家・スローデザイン研究会世話人

お酒大好き女子との問答「私のいち押し、このお酒。何ともいえないのよ。さわやかでコクがある。のど越しが、生きてて良かったって思うのよ」「ふーん、なんていうお酒?」「ふろうせん」「不老せん! エイジレスなお酒やね」「泉やって」。古式ゆかしい木槽天秤搾りの製法で作られる希少な日本酒だ。古くて新しい高島市の上原酒造。そこには日本酒の原風景が・・・

上原酒造の脇を流れる安曇川から分岐した小川。室内のかぼたからあふれた生水(しょうず)が合流し、琵琶湖に注ぐ
/写真:永江弘之

日本酒の原点を求めて

高島市新旭町の安曇川河口に隣接した太田地区に、自然を生かした昔ながらの伝統的な酒造りにこだわる酒蔵がある。文久二年（1862）創業の上原酒造だ。

高度成長期。日本酒の消費量が急増し、業界では製造競争とコスト競争がエスカレートしていた。近代設備を備えた工場が短時間に大量の酒を生産する酒造りが、コスト破壊を招いて各地の小さな蔵元を圧迫した。酒の質を落とす経済効率優先の酒造りに疑問を抱いた六代目蔵元の上原忠雄氏（現会長）は、大手酒造会社の下で30年続けた酒造りに終止符を打つ。日本酒本来の味を追求し、自分たちの酒造りを目ざす独自の道を選択したのである。

平成2年（1990）に兵庫県但馬の杜氏、故山根弘氏と出会った忠雄氏は、醸造りの手法で仕込む山廃酒の製造に踏み切る。その翌年には長男の績氏（現代表取締役、七代目蔵元）が入社。酒造りの原点を求めて、蔵元親子と杜氏の旅が始まったのである。

原料にこだわり、伝統に学ぶ

杜氏の技術と経験、水と米と気候条件、そしていい酒を造りたいという蔵元の気持ち。忠雄氏の、いい酒を造るための六つの条件だ。

米は酒造りの基本。米作りに必要な条件は、夏場から初秋にかけての昼夜の温度差が大きいこと。だから原料米の県内生産者はどれも山間部の契約農家だ。送られてきた高品質の酒米は100%自家精米される。巨大な精米機は上原酒造で唯一のハイテク機械だ。

麻布を敷いた桶で洗米し、木製の甕で米を蒸す。床に敷いた竹簀の上で蒸米を冷まし、種麴をまぶして麴を作る。蔵に棲む酵母を温度操作だけ呼び込み、醗を作る。木桶でもろみ（醗）を仕込み、麻袋に詰めて木槽天秤で搾る。どれも手作業だ。

木の道具にこだわるのは、木のもつ優れた保温性と調湿性が、酒の品質を左右する蒸米作りやもろみの仕込みに欠かせないからである。道具の腐食や虫食い、カビ対策には柿渋を塗る。木槽天秤搾りにか

かる手間暇は機械搾りの3倍以上、搾れる酒は85%程度という効率の悪さだが、その分、酒の味は格段によくならない。昔ながらの酒造りの製法の豊かな知恵と優れた技術に着目した忠雄氏は、日本酒の原風景ともいっべき世界を再現して見せたのだ。

酒蔵に息づく命

酒は冬に仕込む。酒蔵の温度は外の温度で決まるから、雪の多い日本海型の高島市の気候は酒造りに向いている。上原酒造の山廃仕込は、蒸米に麴と水を加えたタンクの中に、蔵にもともと棲んでいる生きた酵母を低温状態でゆっくり時間をかけて呼び込み、育成して酒の醗を造るやり方だ。工場で培養した酵母を添加して造るのが常識になった今、このような酒造りをしている酒蔵は全国でも数社だけだといふ。

この酒蔵には、酵母という微生物が息づく豊かな生態系が生きている。良い菌もいれば悪い菌もいる。悪い菌が増えないように管理するのは至難の業だといふ。





1



3



2



4

7



7



6



5

①上原酒造の正面入口。左の木製囲いの中が生水（しょうず）の湧出口 ②仕込蔵（右）と麹室（左）。上原酒造には二つの古い蔵がある ③「三輪明神」を祭る仕込蔵の神棚 ④下から蒸気を入れて米を蒸す甑（こしぎ） ⑤仕込蔵の冬の室温は山麩仕込の生命線 ⑥木槽の蓋と竹箒。後方はもろみを詰める麻袋。天秤棒で圧迫した時に蓋が滑らかに沈むよう、木槽の内壁を竹箒で囲む。毎年柿渋を塗って手入れをする ⑦吉野杉の木桶。もろみを仕込む（本仕込）のに使う ⑧仕込んだ袋詰めのもろみを木槽（きぶね / 右奥）に詰め、石の重りを下げた天秤棒で圧迫して酒を搾り出す（写真①④：大原歩 / 写真②：大岩剛一 / 写真③⑥～⑧：永江弘之）

8



8





上原酒造のかばたにほとぼしる生水。夏は涼しく、かばたのそばで利き酒をする客に喜ばれる／写真：大原 歩

効率的な社会では心の眼が隅々まで行き届かないから当然、質の高いものは作れなくなるし、周囲の自然の変化にも鈍感になりがちだ。だが、ここには酵母と人の濃密な共生関係がある。長年培われてきた、蔵人の研ぎ澄まされた直観力と観察力がある。彼らには、酵母が命あるものとしていつも見えているのだ。

命の酒

安曇川河口のデルタ地帯には、細い水路が網の目のように広がり、地中を流れる伏流水が至る所に湧き出ている。上原酒造では、敷地内の2ヶ所から出たこの湧水を酒蔵まで引いて仕込水に利用している。仕込水は酵母の発酵を促す重要な水だ。水温は冬で12〜13度、夏でも14〜15度。軟水なのでまろやかな酒の味が出るという。

「不老泉」は上原酒造を代表する銘柄だ。

その昔、湧水のポイントを掘り当てた時に、たまたま出てきたお地蔵さんにちなんでつけた名前だぞうだ。「生水」と呼ばれるこの湧水は、文字通りの生きた水、命の

水である。上原の酒は、こんこんと湧き出る永遠の命の泉から生まれた、循環する命の酒なのである。それは、伝統と自然の恵みから生まれた「古くして新しい物語」だ。

*本稿は「近江学 第二号」（成安造形大学付属近江学研究所発行、2010年）所収の編者「酒蔵／命の酒のふるさと」を下敷きに、本誌のために書き下ろした。

懐かし未来の樂づくり 大石剛一

●おおいわ・ごういち＝建築家。東京生まれ。大石剛一 住環境研究所代表。環境文化NGOナマケモノ倶楽部世話人。成安造形大学付属近江学研究所客員研究員。2001年よりスローデザイン研究会を主宰、圧縮した稲藁を使ったストローペールハウスの研究と普及に努める。昨年来フータンで二度の住生活調査を実施。主な作品に「善寺寺間恩堂」Cafeネリン「カフエスロー」など。著書に「わらの家」他、「文化誌近江学」対談連載中。

○スローデザイン研究会
<http://www.slowdesign.net>

○上原酒造

滋賀県高島市新旭町太田1524
TEL: 0740-255-2075
<http://furosen.com/>

●対談



さいとう としひこ
齋藤 利彦

株式会社鮎家 会長



もり けんじ
森 建司

循環型社会システム研究所
代表

〈「原点」達人に学ぶ〉

キーワードは“滋賀らしさ” 高くても売れる商品を作る

40年以上前に発売されて以来、「鮎家」の昆布巻きは贈答品の定番として全国の百貨店で売れ続けています。最近では、原点に戻って滋賀らしい商品作りを進めているそうです。売れる商品作りのヒントを探して、鮎家会長の齋藤利彦さんにお話をうかがいました。

■ 鮎家の郷（野洲市吉川）

■ 2015年3月25日





田んぼの中に造った 大聖観光施設で躍進

森 今日の話では、鮎家の事業の経営理念、そして齋藤さん個人としての人生の理念や夢についても語っていただき

「次から次へと夢が広がる」 齋藤氏

たいと思っております。

鮎家は関連会社がたくさんありますね。また、齋藤会長は仕事がお忙しいのに音楽の趣味をお持ちで、絵や書もずいぶん本格的にしておられる。「一筋に」という方はよくいらっしゃいますが、いろいろなことを並行してやって、そのどれもが成功している方はあまりいらっしゃらないと思います。

齋藤 成功はしていませんけれども、自分が思いついたことを夢のままにしておかないで、自分も持っているお金の範囲内で一回ちょっとやってみよう、あかんかったらやめたらええわと思ってやってきました。

森 グループの中心となる「鮎家の郷」では、鮎や鴨・近江牛をはじめとする近江の食材を使った創作料理の食事があって、驚くほど多種多様な近江の

お土産ものを製造工房直結で販売しておられる。琵琶湖畔の何もなかったところにこういう立派な施設を造られたのは、まさに地域おこしですね。

齋藤 あんな田んぼと葦原しかないところに大型の施設を造るなんて、そんな無謀なこと止めておきなさいと経済界の方からずいぶん言われましたよ。

森 どうして野洲に「鮎家の郷」を造ろうとお考えになったんですか？

齋藤 以前、国の施策に従って滋賀県が「リゾートネットワーク構想」を打ちだしました。琵琶湖のまわりにある観光資源をネットワークのようにつなごうという構想です。行政として琵琶湖博物館・びわ湖ホール・水生植物園を造る。これと同時に民間も参画しなくてはいけないということでした。この一帯は何もありませんでしたから「観光客がトイレ休憩できるところを造って欲しい」と当時の知事から要請されて、民間事業者第一号として「鮎家の郷」を造りました。まだ「道の駅」が全国どこにもない時代でした。創業以来大津で製造していたんですが、周辺の宅地化が進んで移転先を探して

いたところでしたからね。こういう田んぼの中で営業しているのはうちだけです。すから、オープンするとあちこちの商工会議所などから見学がたくさんありました。

森 真ん中にレストランと売店があつて、奥にいろいろな施設があるという全体的構想は誰の発案ですか？

齋藤 自分で考えました。実は、現状はまだ第一期工事だけが済んだところ。ゆくゆくは奥にある1万坪の土地の第二期工事にかかるうと思つています。そこではものを売るのでなく、自然を再現したいと考えています。

森 全部、齋藤会長ご自身が考えておられるとは驚きです！ そんな風に次々に新しいことを考えつかれる発想の源はどこにあるんですか？

齋藤 ここは夕日がきれいで、日が沈むと夜景がキラキラと光つて。いつもそれをみながら一人で夜釣りをしているのを考えています。明日も三上山から太陽が昇るのをみられますようにと、仕事が終わるといつも拝んでいます。

滋賀らしい原点に立ち戻る

齋藤 今はものの売り方を都会的にしていますが、もう一度滋賀県らしい売り方に戻りたいと思つています。安いものはいくらでもある。だから、うちの商品は安くしなくていい。単にものを買うだけでなく、お客さんに思い出が残る店にしたいんです。

森 消費は美德であるとか、どこまでも価格競争するといった考え方ではいけないと、私たちがM・O・H運動を通じて常々みなさんに訴えております。

齋藤 「ほどほどに」というのは本当にいい言葉だと思えますね。商売でもなんでもほどほどが一番ですよ。

森 競争に勝つたといつても、そんなものは長続きしない。みんながともに生きしていける共生社会にしないといけない。未来のことを

「多芸多趣味に圧倒されました」 森氏

考えてみても、ほどほどがいいですよ。ほどほどで共生社会にしてみんなで生き抜く。その中に幸福があると思つています。

齋藤 そうです。あんまり欲を出して会社を大きくしようとか考えなくても、



1



3



2

①③ 休日は観光客でにぎわう「鮎家の郷」。1階は売場で、2階がレストラン ② 齋藤氏お気に入りの中庭。比良山と琵琶湖が望める

社員がゆっくり生活できて安定していればいいんです。

森 社員の方たちの幸福を考えて経営しているらっしゃるんですね。従業員、その家族、そして地域の人たちの幸福を考えてこそ、地域社会が未来に向かって発展していけると思います。

さきほど、もう一度原点に戻したいとおっしゃっておられました。が、売り方以外にも何かお考えですか？

齋藤 6キロの鍋で炊く、それが鮎家の基本です。今は蒸気で作っていますが、最高級のもので作ろうと思ったら炊き方も原点に戻らないといけない。利便性を追わないで、昔ながら



④ 昆布の詰合わせ「耀（きらめき）」⑤⑥ 子持大鮎の塩焼むしと子持大鮎の山椒煮の詰合わせ「鮎」。ふっくらとして柔らかい ⑦ お惣菜の詰合わせ「琵琶湖と近江の華」⑧ 琵琶湖がパノラマで見渡せるロケーションの中、齋藤氏の話に引き込まれる森氏

の炊き方のすべてを工場
の一人一人に教えたい。
また今年から大きく変
えたのは、本節を使う
こと。今までは袋に入っ
た鰯の削り節を京都か
ら納めてもらっていま
したが、それではあか
ん。どんな削り節かわ
からない袋入りではな
く、ほんまの鰯の本節
を使わないと。味を決
める一番がだしですか
ら。自社で本節を削っ
て鰯の一番だしをとる。
一回ずつだしをとって味
見をして判断する。そう
したら昆布の味がすこ
く良くなったんですよ。
森「いいもの」を作れ
ば売れるんですよね。
齋藤会長の知識と情熱
で会社をここまで大き
くされたのだと納得し
ました。



齋藤 「鮎家の郷」での小屋炊きも、もう一度レングで原点の「おくどさん」を築いて、そこで炊いたものをそのまま売るような店舗に改装しているところ。さらにもう一つ、原点の鮎に戻るというところで、新商品「子持大鮎の塩焼むし」を開発して今年4月から販売を始めました。原材料は鮎と塩だけ。塩焼きして蒸したことで骨も軟らかくなつて頭から尻尾まで全部食べられる。レトルトの大きな装置を使って殺菌しているの、保存料など一切なしで長期保存できるんですよ。1尾1080円しますが、横浜で先行販売したところよく売れています。

森 今の時代、ものの値段はあつてないようなもの。生産者が誇りをもって作ったものを、消費者も誇りをもって買う。鮎家さんではそれが実現できていて、すばらしいです。

齋藤 それと、滋賀県のものばかりを詰めて売ってみようと「琵琶湖と近江の華」というセットも作りました。鮎・シジミ・エビ豆・赤こんにゃく・鴨のお吸い物などを籠に盛り合わせて。これ

がものすごくよく売れています。

森 滋賀県の特産品ばかりを集めるという発想がいいですね。

地域の産物を生かした コミュニティビジネスを

森 全国的にみると滋賀県は知名度が低いですよ。知名度を上げるためにも、もつと地域の人たちが産物も含めてその地域に誇りを持たないといけないと思うのですが。

齋藤 せっかくだいいい仏像が京都以上にあるのだから、滋賀県はもう少し仏像を宣伝しないとイケないと思いますね。ここの近くにある兵主大社ものすごくいいお宮さんなのに全然知られていない。「鮎家の郷」の前に兵主大社の大きな案内板を立てようと思っています。

森 齋藤会長は滋賀の観光についてもいろいろ尽力されておられますね。

われわれはいわゆる地産地消、その地域ならではの商品づくりをして地域の人に買ってもらおうコミュニティビジネスに挑戦しようと思ひ、長浜市から補助



作詞家としても活躍する齋藤氏



所蔵の美術品を展覧する。齋藤氏は画家としても卓越した腕をもつ

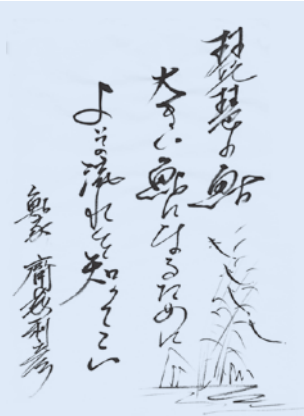


齋藤ワールドを堪能。自筆の書も多数

金をもらってバイオビジネス創出研究会を立ち上げました。そこではビジネス創出の支援をさせてもらっています。
齋藤 この6年間、小鮎の漁獲量が少なくなり売り上げが上がらない。私は琵琶湖の中に網を張って、鮎の稚鮎を小鮎にするための養殖場を作りたいとずつと考えています。どういっ梓を作つ

たら琵琶湖を汚さずに養殖できるのか、大学も一緒になってぜひ研究してもらいたいです。

森 なるほど、そういう研究を必要とされているわけですね。滋賀県独特の地域産業おこしといつても実際にはなかなかむずかしい……。ところが、鮎家さんは滋賀の特産品を見直して付加価

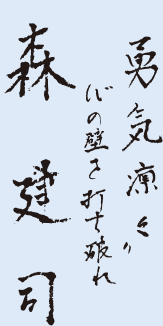


●さいとうとしひこ 1937年滋賀県彦根市生まれ。1956年彦根東高等学校卒業。大阪製菓化学研究所カバヤ食品(株)で経験を積み、1967年びわ湖佃煮(鮎家)創業。1976年(株)鮎家設立、社長に就任。2012年同社社長に就任、現在に至る。2011年旭日双光賞(内閣府)等。作詞家として(社)日本音楽著作権協会所属。絵画では県展・市展で入選多数。

値を上げようと自ら工夫されている。コミュニティビジネスを広げたい、こうという人たちが「M・O・H通信」を通して集まり始めていますので、齋藤会長にもぜひ参加していただきたいです。いろいろな発想を次々に実現されてきた齋藤会長のお話は非常に参考になりました。ありがとうございます。

○鮎家の郷

滋賀県野洲市吉川41-87
 TEL: 077-5809-3609
<http://www.ayuanosato.co.jp/>



●もりけんじ 1936年滋賀生まれ。滋賀県立長浜北高校卒業。新江州(株)取締役会長。滋賀経済同友会特別幹事、滋賀経済産業協会相談役など。
 著書／『吃音はなある』遊タイム出版、『循環型社会入門』新風舎、『中小企業にしかできない持続可能型社会の企業経営』サンライズ出版、『中小企業相談センター事件簿』サンライズ出版。



あさい おさむ
浅井 脩
長浜ビロード職人

②M・O・Hレポートへ「原点」達人に学ぶ衣 ほんまもんをみよう！ ビロードの知られざる魅力

● 手織りのビロードを間近で見たことがありますか？

長浜の伝統的な工芸品である「長浜ビロード」は最盛期の昭和30年代には何百軒もの織元がありましたが、現在も生産を続けているところは数えるほど。名工の技が息づく本物のビロードの魅力に触れたいと、浅井脩さんの工房を訪ねました。

- 浅井邸（長浜市）
- 2015年4月6日



江州天鷲絨（ビロード）沿革。
光沢が天鷲（白鳥）の羽毛を思わせることから、天鷲絨と書くようになった

これが本物！
ピロードの美

無意識に目が吸い寄せられ、しばらくそのバッグから目が離せない。

紺より明るく青よりも深い、穏やかに奥深い色は月光のように静かで凛とした佇まい。緻密な毛羽がやわらかな光沢を生み、糸の色だけでは表現できない奥行きをもたせている。そっと指先で触れてみると、想像していたよりもずっと毛足は短い。

浅井脩さんが製作したピロードのバッグを見せてもらったときのことだ。ピロードとはこんなにも美しいものだったのかと、しばらく呆けたように見とれた。今まで「本物」を目にしたことがなかったのだと知る。

長浜の伝統工芸「長浜ピロード」は、私たちが漠然と「ピロード」「ベルベツト」と呼ぶ、洋装に使われている安価な生地とは素材も製法もまったく違う。そのことは素人の目にもはっきりわかった。織り方に独自の工夫を凝らして浅井さんが作ったものは、昔ながらの長



ため息がでる程美しいクラッチバッグ

浜ピロードとも風合いが違うようだ。

「反物を見たときに、なんととはなしにその商品が生きていて貫禄がないとかかん。織機にかけてあるのを見ただけで、生きてるか死んでるかわかるんです。京都での展示会にも何度も出品しましたけど、西陣からもたくさん品がでてるし、デザイナーが変わったものを作ってるからピロードの棚が何段もあつた。そんな中に置いてあつても、うちの商品は歩いていてもふっと目に留まる。生きとるから目に留まるんです」

実物を目の前にして、浅井さんの言葉に納得がいく。

集中力と熟練の技

ピロードの織り方は独特だ。

縦糸を張った織機に横糸を打ちこむと、反物の幅より少しだけ長いステンレス製の細い針金一本を横から縦糸の間に手で滑りこませ、再び横糸を打ちこむ。こうして一本一本手作業で針金を入れて、一反(約6メートル)で8000から9000本、多いときには1万本もの針金を織りこむ。こうすると、すべての縦糸が針金の厚みと同じだけの高さの極小のループ状になる。織りあがった反物の縦糸のループ(繊維業界では「輪奈」と呼ばれる)の頂点を小刀でスツと切る。この工程を「針切り」という。針切りをすると、撚りのかかった糸が自然にふわっとほどけてピロード特有の毛羽になるわけだ。

もう一つ、長浜ピロードには「輪奈天」という長浜独自の製法がある。これは針切りをせず、針金を横から引き



1



3



2



① かつん・からり・しゃつリズムを刻んで歌うように織る妻の喜代野さん
 ② 針金を滑らせるのが職人技 ③ 織り上がった反物
 ④ 年代物の機械。壊れたら修理できない ⑤ ⑥ なめらかな光沢の糸 ⑦ 表面が輪奈で覆われたパイル織物。滑らかな感触 ⑧ 針金を抜いて輪奈天の完成



抜いたままの織物。一見するとループ状になっているかどうかわからないほど密集した細かいループが、柔らかくしつとりと吸いつくような手触りを生みだしている。

浅井さんが作った商品の中には輪奈と針切りを組み合わせ、輪奈の地に毛羽で模様を複雑に浮きあがらせたものもあった。針切りの仕方、織りによる模様の出し方に、浅井さんが自分一人で考え工夫したやり方がいろいろ盛りこまれているそうだ。

「私は京都の出身で先代は西陣で織維関係の仕事をしていましたから、だいたいことは知っていました。でも、長浜のピロードの織り方は京都とは全然違った。それで、これはどうやって織ってるのかなと思って見えましたんや。こちらでやっている針切りのやり方ではいいものがないと思って、針切りの研究のために京都やあちこち行つて見せてもらいました。けど、やっぱりこれではだめだと思つて自分で研究しました。長浜で2、3年針切りをやらせてもらつて独立しました」



①かわいい織模様の巾着袋 ②お出かけにちょうどいいセカンドバッグ ③正装用として人気の高いフォーマルバッグ ④お食事会や同窓会に重宝されるピロードのバッグ

よそ者だったために技術を教えてもらえなかつたことが浅井さんの反骨精神を育み、新しい工夫を生んだ。

「資金もないし、長浜市に縁もなければ親類もない。それなら自分の力でやるしかない。とにかく長浜で一番のピロードを作つたらええんやと思ひました。助けてもらえんかつたから、自分でいろいろ挑戦して、だからできたんです」

美しいピロードを作るコツは「集中力」のひと言。織りも針切りも8000回以上同じ作業を繰り返して乱れがない。少しでも気がそれて、一部でも織り目や切り口が真っ直ぐでなければムラになって、一面の毛羽の中でとても目立つことは素人でも容易に想像がつく。

「夫婦喧嘩したら、一人で織機に向かうんです。怒ったりイライラしているときれいに織れないから、織り始めるとすぐ織りに集中して無心になれるの」と妻の喜代野さんは笑う。「結婚前から織物をしてましたけど、ピロードのようにむずかしい織りはないと思ひます」

二人でピロードを織り続けて63年。集中力と熟練の職人技、そして自分なりの工夫で次々に新しい織りを作りだし、さまざまな賞に輝いてきた。

高くても
満足できるものを

しかし残念ながら、浅井さんの代で廃業すると決めている。繊維関係の間屋が製品の在庫をもたなくなり、商品を作っても間屋に売れなくなってしまうからだ。浅井さんは最近の流通業界のあり方に疑問を感じている。

「経営コンサルタントの話ばかり聞いて、スーパーも競争の原理でどこまでも底なし沼のように値引きする。それで田舎にある店は全部潰れてしまう。生き残ったスーパー同士でまた潰し合いをして……。余って捨てなくてはいけないほど作ってまで、なぜ競争する

のか。それなら誠心誠意、心をこめて作らした人の品を価格競争しないで買ったらええのに。売る人も買う人も作る人も三者が平等に喜べるような商売をしたらええのにも思います」



「織物が一生の仕事です」本物を作り続けるご夫婦

どんなものでも気軽に手に入るようになった現代社会。問われているのは、買い手としてのものを見極める目なのかもしれない。

「スマホでものが買えるようになって、写真だけ見て選んでも、靴は自分の足に合わなければ歩けない。手にとってほんまに『これや！』と自分が得心したら、値段が高くても満足できる。宣伝で煽られたりせず、要らないものは買わなかったらええんですよ」

浅井修

●あさいおさむ 昭和4年（1929）京都市生まれ。京都市の待賢小学校を卒業後、川西航空機で輸送機の整備に従事。終戦後、機械メーカーへの就職を機に滋賀県長浜市へ。昭和24年（1949）頃から長浜ピロード製作の修業、昭和27年（1952）に独立。滋賀県繊維協会主催の繊維製品新作発表会において、昭和40年（1965）通商産業省表彰、昭和49年（1974）綴れ帯で長浜市長表彰など受賞多数。

③ M・O・Hレポート 〈「原点」達人に学ぶ・衣〉

作り続けることで次世代につなぐ 「ものづくり」としてのシャツ



く め かつとし
久米 勝智
COMMUNEオーナー

シックな町並みに飲食や雑貨の店舗が集まる彦根四番町スクエア。その一角に、ハンドメイドでオリジナルのシャツを販売している「COMMUNE（コミュニン）」があります。大量生産の安価な洋服があふれる世の中で、手づくりを貫く若き店主・久米勝智さんの「ものづくり」への思いをお聞きました。

- COMMUNE(彦根市)
- 2015年3月31日

「ものづくり」への共感の場
「町のシャツ屋さん」

「町の景色を作っているような店、『町のシャツ屋さん』という感覚で根づくのが理想です。僕が本当にやりたいのは、続けること、だけなんです」

そう話す久米勝智さんは、メンズ&レディースのハンドメイドのシャツを製作販売する「COMUNE」のオーナー。アトリエ兼店舗の大きなガラス窓を通して、シャツの袖を無造作にまくり上げエプロンをかけた久米さんが一人で作業台に向かってオリジナルのシャツを作っている姿が見える。

2009年5月のオープンから丸6年が経った今、店も久米さんもほどよく町にとけこんでいる。

英語の店名にこめられているのは、人と人、あるいは人との「共存」「親しく交わる」という意味。

「やっていることに共感してくださったり、共通の部分があると話せることがいっぱいある。それが楽しいんです、お客さんも自分も。お店ってそういう場

所かなと思っています」

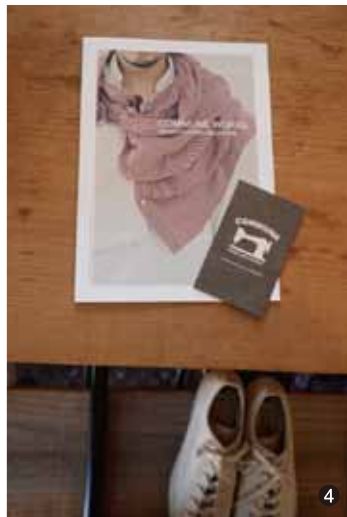
「COMUNE」に並ぶのはすべて普段着のシャツ。スーツに合わせるワイシャツではなく、喫茶店のマスターが着ているような、カジュアルでさりげなくスタイルがあるシャツをイメージしている。デザイン・パターンは久米さんのオリジナルで、久米さん自らがカットイングから縫製まで行っている。久米さんを支える少数の縫製スタッフは開店当初からのお客さんでもある。

「COMUNE」のシャツのファンで、シャツ愛が昂じて久米さんにミシンを習い、ついにはスタッフとなり、そして今でもお客さんとしてシャツを買っている方もいるそうだ。

基本は既製品だが、試着した際のフィッティングによつてサイズの微妙な補正

彦根市四番町スクエアは洋館の佇まい





①コートもシャツ感覚で ②ディスプレイにもセンスが光る ③大きなガラス窓を通して町のにぎわいが見える工房 ④おしゃれなカタログ ⑤お昼休みに「見に来ました」と常連さん

にも対応する。お客さんの要望をそのまま形にするフルオーダーは受けていないが、お客さんとの会話を通して、その人の好みやシャツを着たいシチュエーションがわかれば、久米さんが襟の形や他の素材・ボタンなどを提案することも。

「お客さんがやりたいことと自分のやり方を合わせていいものを作りましょうという考え方なんです。その二つがうまく重なると、よりいいものができるとんじやないかと思っています。自分はプロとしてもを作っているし、お客さんがわからない部分をこうしたらいいのではと想像したり、お客さんの要望通りではうまくいかないと判断すれば、それならこうした方がいいんじゃないですかと提案ができる。それが僕のやっている仕事なんです」

ファッションの中心地である東京から離れ、故郷の彦根にアトリエを構えたことにも理由がある。

「売れる場所で作るよりも、生活のリズムの中で作りたいんです。場所や環境で作るものも変わる気がしています。ご飯を食べたりお茶を飲んだり寝たり、



シンプルな中に個性が引き立つシャツ

そういう生活の中に自然にもものづくりがある、よりいいものが作れるのかなと思ったりしています」



作ることの意味を自問する

「洋服を作っていますが、アパレル業界とは背中合わせにいる気がします。アパレルはとりあえず消費という感じで、僕はものづくりの視点。立っている位置は近くても、見ている方向がまったく違う」「ものを作ることが単純にもすごく好き」と話す久米さんは、アパレル業界よりも木工や手縫いの革製品、陶芸に近しさを感じている。その一方で、「工業製品に人の手が加わったような、製品と手づくりの間みたいなものがすごく好きなんです」と語る。

ものがあふれている今の世の中で、ものを作ることに意味があるのか？ そんなことを自問しながら、久米さんはシャツを作り続けてきた。いたるところで安価なシャツが売られている。それだからといって自分はシャツを作らないという選択はありえなかった。

高校生のときから洋服が大好きで、東京の服飾専門学校に進み、好きなシャツというアイテムを自分で一から作るうとして、その想像以上のむずかしさを知ると、シャツ作りにどんどんはまっていった。作り手として自分が作ったものをいろんな人に着てもらいたいという欲も、もちろんある。でも…。

そうしてたどり着いたのが「必要な分だけ作る」ということ。このやり方が今の時代に合っているかどうかはわからない。ものを作ることに意味があるのかないのかも、深く考えるとむずかしい。それでも、自分なりのやり方で作り続けたいと願っている。

「僕は大手衣料量販店も全然否定しません。あの価格であれだけの質のものが作れるというのは企業としてすごいと思います。高くても自分が本当に好きなものを一つ二つ買ったたり、ファストファッションもうまく使いつながら生活すればいいと僕は思っています。『これはだめ。これはいい』という極端な話じゃなくてね。若いときはいろいろな着たいし、いろんなものが欲しい。いろいろな

経験を重ねていくうちに、自分が本当に好きなものが絞られてくるんですよ」

次の世代の夢のために

自分が作ったものを世の中にきちんと届けて、それを生業として生活するのが何よりの前提だ。

「ものを自分の手で作ってご飯を食べていくのは、正直楽な仕事じゃない。それは仕方がないという話にすぐなるけれど、僕らの世代はそれに甘んじていたらだめ。ちゃんと食べていけるぐらいの仕事の仕方をしていじめないかと思うんですよ。そうでないと、次の世代の人がものづくりに対して夢がもてないじゃないですか。ものづくりってすごく技術が必要だし、そのものに賭けているのだから、それぐらいの対価はあってもいいと思います。そうなるようにしていくのが自分たちの世代の役目だと思っています。本当にできるかどうかはわからないけれど、目指すのは大事ですから」

自分はこれが好き！

その感覚は譲れない

最後に、好きな素材について尋ねると「基本的にはコットンが好きです。

最近ようやく滋賀の麻を使いたいなと思いはじめました」という答えが返ってきた。なぜ今まで滋賀の生地を使う気にならなかったのだろうか？

「滋賀でもものづくりしていて、滋賀の生地を使うのは、外へアピールするには確かに魅力的だと思います。でも、それでいいのかわからない。滋賀産だから使うということをしてしまつたら、ろくなものができない。自分が作りたいものにその素材がフィットするなら使うべきだし、そうでなければ使うべきでない」

流行っているものに無理に自分を合わせることなく「これがいい。自分だけが好きだ」という感覚を大切にしたい。そうして作っていれば、他の人に負けないんじゃないかと久米さんは考えている。

「いいなと思う生地を触ると、手がすぐくっついていいことになるんですよ。自分で



1



3



2

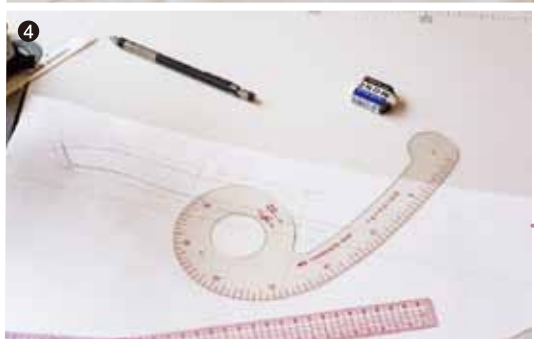
①「こうやって世間話するのが大好き」久米氏 ②話しながらも手際良く作業は進む ③袖口にも個性 ④用具もシンプルに使いこなす ⑤デザインと着心地の良さを追求 ⑥こまめなアイロンが仕上がりの美しさを生む



6



5



4



「いらっしゃいませ。ゆっくりとお過ごし下さい」 久米氏

そう意識しなくても、生地が『ていねいに扱え』と喋ってくるような感じがある。そこにものを作っている楽しさがあるんですよ。素材を触っている人はみんなその感覚があるんじゃないかな、木工の人とかも」

1ミリ単位で縫う位置にこだわり、微妙な手加減でミシンをかけて袖付け

に立体的な丸みをもたせる。生地に触れる久米さんの繊細な指先から、平面の布がマジックのように手際よく身体にフィットする立体になっていく。そうやって手を動かして作られたシャツの中に、ものを作る意味の答えがみつけれられそうな気がした。



シングルに

生チ、ち

久米勝智


●くめかつとしーシャツメーカーやパタナーを経験した後、生まれ故郷である滋賀、彦根に2009年5月にシヨップ兼アトリエ「COMMUNE」をオープン。シャツを中心としたオリジナルアイテムを制作している。

○COMMUNE

滋賀県彦根市本町1丁目11-9

TEL: 0749-26-2002

<http://commune-works.com>



丁寧に素材を語る。紺喜染織・植西恒夫氏(左)、
純近江産の綿糸を正藍染めするおうみこっどん
夢つむぎのメンバー(中)、見守る北川氏(右)

④ 寄稿〈「原点」達人に学ぶ・衣〉

藍(愛)が濃い(恋)になるとき 滋賀の伝統的工芸と未来

きたがわ ようこ
北川 陽子

ファブリカ村 (北川織物工場)

「藍染」は植物の藍が原料となる。藍で染められた綿・絹・麻は美しく丈夫だ。防虫効果もあるという。どんなに酷使しても染め直せば、新たに生まれ変わる。魅力的な正藍染を家業としている『紺喜染織』(植西恒夫当主)で藍染体験があると聞き、お邪魔した。植西当主の口癖は「藍染は伝統やない、仕事や」後継者不在ではあるが、若い人との出会いを藍に込めながら、ご夫婦で仕事を続ける。この現状を踏まえ、ファブリカ村の北川陽子さんに、現状と若者との接点を説明いただく。

■紺喜染織 (湖南省)

■2015年3月27日

ノラふくに心動く

「ノラふく」というカッコいい野良着との出会いが紺喜染織さんとの出会いに繋がりました。

ノラノコという活動があります。自分たちの手で「つくる」ことを通して、音楽を奏できるように、自由に愉しみながら、生きるちからを育て、自然に寄りそった暮らしを探る集まりです。彼らは自然農法でお米や野菜を育てています。農作業もお洒落にかっこよく、そんなノラノコから生まれた藍染の服「ノラふく」。そのファッションショーを見て可能性を強く感じました。着てみたい。トレンドとしてのかっこ良さとは別のオーラを感じました。そのノラふくが紺喜染織さんの正藍染めでした。

淡路島で「島のふく」として服作りをしているchar*の、あまつつみまなみさんが手がけています。

彼女がこだわった藍染めは糸を強くし、虫よけ効果もあるという理にかなったものです。

若い感性と伝統工芸の出会いが、程よい化学反応を起こしました。

滋賀の伝統文化と未来

長い歴史の中で培われ、地域の人々の生活と密着しながら受け継がれてきた工芸品は、伝統的工芸品と称され、滋賀県内では知事指定のものが38品目、経済産業大臣指定のものが3品目があります。伝統的工芸品の振興を図るため、常に見直されつつ継承されています。私は滋賀県伝統的工芸品振興懇話会に委員として在籍し、改めて滋賀県の多種にわたる伝統的工芸品を知りました。しかしながら、この素晴らしい地域の伝統的工芸品を県民のどの方々がご存知でしょうか？保護するだけでなく、伝え、使われ続けることができなものでしょうか？

滋賀県東近江市にて湖東麻織物の仕事に長年携わってきていますので少しは地場産業のことを分かっているつもりです。それでも、他分野の産業や工芸に関しては、こうした懇話会の中で知る程度でしかありませんでした。

日本のものづくりは売ることに関して厳しい状況です。売れなくては、続けていけない。職人の仕事がどんどん消えていきます。一度失われた伝統や技術は取り返しがつきません。日本人の美意識までなくなってしまうので悲しいです。

正藍染の魅力に出会い

では、私たちに何ができるのか。まずは産業や工芸品に出会うこと、知ってもらうことが大切です。

私がそうであったように、知らないから選択肢に入らない、出会ってないから興味が湧かないのです。それならば、その機会をつくろうと、職人のものづくりの現場を訪れるツアーを実施したり、体験したりという活動をゆっくりと繰り広げてきました。まずは自分たちが誇りに思えなくては伝えていきません。体感を伴ってその良さを伝播する。そんな滋賀の魅力伝道師を増やしていきたいと思います。

そして今、滋賀県の伝統的工芸品である正藍染めに出会い、興味を持って



2



1



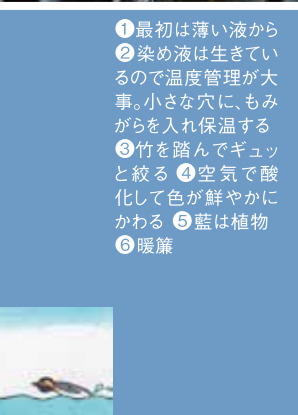
5



4



3



6

- ① 最初は薄い液から
- ② 染め液は生きているので温度管理が大事。小さな穴に、もみ殻を入れ保温する
- ③ 竹を踏んでギュッと絞る
- ④ 空気で酸化して色が鮮やかになる
- ⑤ 藍は植物
- ⑥ 暖簾



「伝統やないねん、生活に根付いたもんや、長く使ってほしい」が口癖の植西夫妻。

います。

職人の技に若者、目覚める

実際に紺喜染織さんで藍染めを体験しました。約180年に渡り守られてきた藍瓶から醸し出される色彩、染場の匂いと空気感は感動的でした。若者がここに通い、職人の感性と交わり新しいムーブメントが生まれてきました。次代に繋がる予感があります。自分で丁寧に染め上げた藍染の服を着ると、不思議と守られているような安心感があります。愛着を持って永く着続けるに違いありません。

このように職人との交流の中で技法の本質を理解し、伝統に取り組み若者が増えることを願ってやみません。それが自分たちの楽しみから始まり、結果、売れていくという仕組みになることを期待します。ノラノコの思いと同じく、私は消費のためのものづくりをしたくありません。作り方、買い方を変えていかねばなりません。社会価値変革です。共感

できる人から、コトから始めましょう。身を守るための布から始まった衣。現代の身を守る衣とはどんな要素のものなのかを考えた時「ノラノク」を身に纏うノラノコ集団の姿と、その先の未来に求められる衣の姿が重なりました。

継結は力例 北川 陽子

●きたがわよっこ

1982年、嵯峨美術短期大学デザイン科染織グループ卒業、北川織物工場(家業)に就く。翌年より湖東繊維工業協同組合の産地振興事業「近江の麻展」に参加しながら、緋で独自の表現を始める。

1999年北川織物工場内に緋工房 Fabrica を併設。

2009年織物工場を改装しフアブリカ村をオープン。2010年、滋賀県のモノづくりを発信するメイドイン滋賀プロジェクトを開始。現在、湖東繊維工業協同組合理事、しが中小企業女性中央会会長など。

○フアブリカ村

滋賀県東近江市佐野町657 北川織物工場

TEL:0748-42-0680

http://www.fabricamura.com/

○紺喜染織

滋賀県湖南市下田1530

TEL:0748-75-0128



ちぢみなどの織物製品をはじめ高島市の産品がならぶ「たかしま・まるごと百貨店」

⑤寄稿く「原点」達人に学ぶ・衣

綿織物の町高島市 「たかしま・まるごと百貨店」

高島にも綿や衣にまつわる産物はたくさんあります。高島ちぢみはおしゃれなステテコとして若者に人気、高島汎布はバッグに、昔からなじんだ布が「たかしま・まるごと百貨店」に並んでいます。

滋賀県高島市は市内に大小さまざまな織物工場や撚糸工場が点在する綿織物の町です。薄物のちぢみやガーゼから厚物の帆布、産業用の特殊織物まで、様々な素材が生産されている事でも知られています。

高島の綿織物の歴史は江戸天明年間まで遡ります。地域の風土に適した作物であった綿花を生かした冬の農閑期の副業から始まり発展を遂げ、明治時代には機械化が進展。一大産地に成長してきました。その後1980年以降国内需要の低迷や後継者不足から生産高の減少した時期を経たものの、近年はブランド化の取り組みが実を結び、再び活況を迎えようとしています。

ちぢみは綿糸に強く撚りをかけて織ることで独特の細かい凹凸があり肌に



ちぢみの涼感を生かすパジャマ



様々なカラーやデザインの肌着



機屋さん直送の生地も多彩



帆布と柿渋染のコラボも



上質な帆布と高いデザイン性による新たな帆布カバン



たほかテントやトラッ
織物で、従来はその名
の通り帆船に使われ

が生まれて、急速に知
名度を上げています。
綿帆布は厚手の綿

シヨナブルなアイテム
様々に適したファッ
シヨナブルなアイテム

れ、従来のイメージに
とらわれず老若男女
適に暮らすための自
然素材として見直さ

の取り組みが進み、平
成24年には地域団体
商標登録を得ていま

からステテコなどの肌
着素材として重要で
した。近年「高島ちぢ
み」の地域ブランド化

密着せず、綿の吸水
性、速乾性と合わせ
て清涼感が高く、以

○観光物産展示販売所
「たかしま・まると百貨店」
滋賀県高島市新旭町旭1丁目10-1 高島
市観光物産プラザ内
TEL: 0740-33-7101
<http://www.takashima-kanko.jp/takamaru.html>

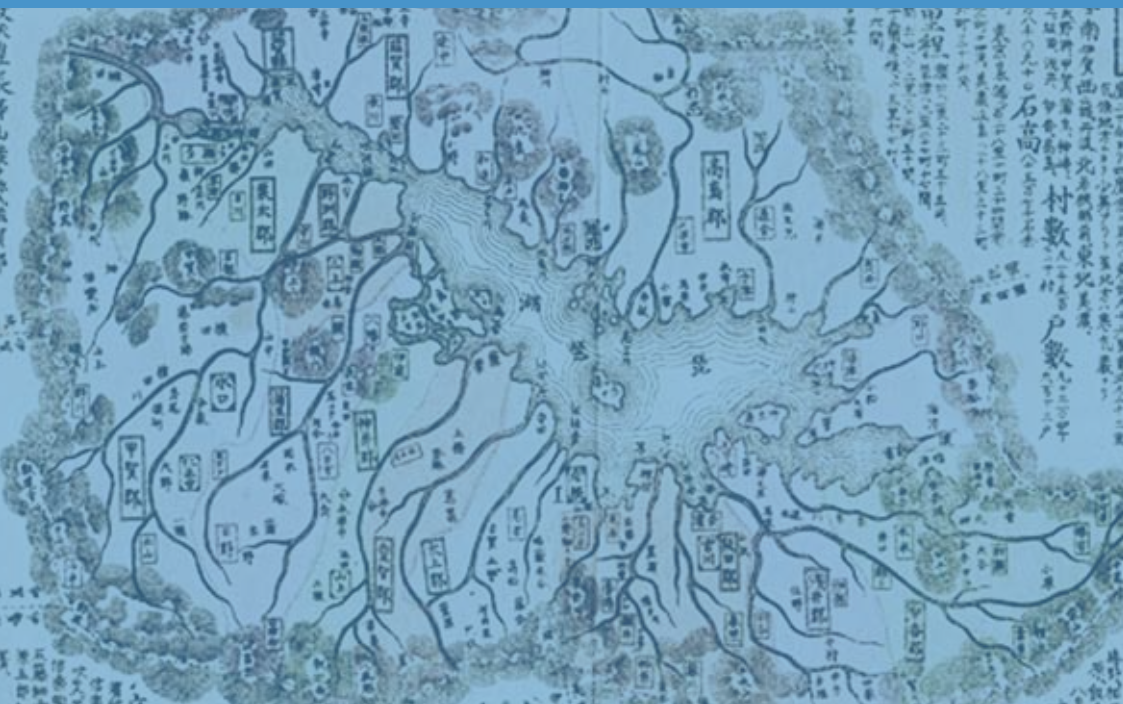
クのシートなどに用いられました。現在では使い込むほどに味わいの増す特性を生かして、トートバッグやスニーカーなど生活に身近なところで出会う機会が多くあります。こちらも「高島帆布」の一般商標を取得し、ブランド化と需要拡大が進んでいます。
平成26年10月にびわ湖高島観光協会は観光物産展示販売所「たかしま・まると百貨店」をオープン、物産を通じて地域産業産品の魅力をPRしています。店内には高島市自慢の特産品やお土産物とならんで、所狭しと「高島ちぢみ」の様々なアイテムや「高島帆布」のかばんがならんでいます。是非一度お立ち寄り頂き、綿織物の町・高島市の魅力にふれてみてください。

(公社) びわ湖高島観光協会

しがのええもん 五十三次

～衣編～

「しがのええもん五十三次」勝手に選定委員会



さてさて、今度は衣ですかい？ 滋賀は糸どころですよ。
養蚕が盛んな地域でした。米つくりと酒つくり、お蚕さんの
歴史が、今につながっていますよ。五十三次お楽しみあれ。

前口上

前号で「おいしいもの編」をお届けした「しがのええもん五十三次」、今回は「衣」編です。滋賀は全国でも珍しい麻・絹・綿が全てとれる「糸どころ」です。身にまとうもの、衣服に関連するものを自由に連想し幅広くご紹介いたします。

5 鼻緒はなお（長浜）

江戸時代中期に生産が始まったビロードを使った鼻緒は、高級品として全国生産の大半を占めました。県の伝統的工芸品に指定されています。

4 網織袖あみりつゆ（長浜）

江戸時代には、豊富な生糸を使った絹の漁網が琵琶湖で使われていました。使い古した漁網を織り込んだのが網織袖の始まりです。切った網の切り口が独特の風合いを生んでいます。

3 綴錦つづれにしき（米原）

のこぎりのようにギザギザに尖らせた爪つめを使って織り上げるため、爪織りともいわれます。下絵に合わせ多くの時間とすぐれた技術で小物から緞帳どんちようまでつくられています。

2 ビロード（長浜）

400年ほど前にポルトガルから伝わったビロードは、柔らかかな手触りと美しい光沢が特徴です。長浜で生産が始まったのは江戸中期といわれ、国内産の大部分を占めたこともあります。

1 浜ちりめんのウエディングドレスウエディングドレス（長浜）

シボと呼ばれる表面の凹凸と絹ならではの艶やかさ、柔らかさを最大限活かした浜ちりめんのウエディングドレス「絹の花嫁」はため息の出るような美しさです。

6 長浜出世まつり（長浜）

人臣位を極めた豊臣秀吉にちなみ、10月11日に長浜市内一帯で開催されるお祭りです。特に壮観なのは約1000人の着物姿の女性が街中を歩く「長浜きもの大園遊会」です。

7 鍋冠まつりなべかんむり（米原）

5月3日に行われる筑摩神社のお祭り。きれいにお化粧した8人の女の子が緑の狩衣に黒い張り子の鍋をかぶり、御旅所から神社まで練り歩きます。日本三大奇祭の一つ。



©穀粥

8 天女の羽衣（余呉）

余呉の天女伝説は日本最古といわれ「近江国風土記」に記されています。天女が水浴びの時に羽衣をかけた「衣掛柳」は、今も湖畔に枝を伸ばしています。

湖北

湖西

11

ローザンベリー 多和田(米原)

広大な羊牧場、美しい庭園で人気の体験観光農園で、羊毛を使ったクラフト体験ができます。美容と健康をテーマにしたレストランやワインショップも人気。

10

近江真綿のふとん (米原)

繭玉から手で作り上げた角(かく)真綿を一枚ずつ引き伸ばし、幾重にも重ねて近江真綿のふとんとなります。羽のように軽く、消臭、吸湿にも優れた最高級品として珍重されています。

9

十一面観音の 衣のひだ(高月)

湖北にはたくさんさんの十一面観音がおられ、その姿の美しさは多くの文人が讃えています。穏やかで荘厳なお顔もさることながら、衣の流れるような美しさは何度見ても飽きません。

17

びわ湖子ども国 の「コロコロ」 ぼおる(高島)

透明で巨大なボールの中に入って水の上を歩けます。高島市のびわ湖子ども国で体験できます。

16

ガリバーの靴(高島)

高島にあるガリバー旅行村は、コテージやキャンプ場もあり、魚のつかみどりやクラフト体験など自然が満喫でき、いろいろなしかけがあります。その一つ「大人の国」には、どんと大きい「ガリバーの靴」がジャンブルジムの横にあります。

12

扇・扇骨(高島)

300年の歴史があるとも伝わる高島の扇骨は、京扇子の9割に使われていますといわれています。扇として作られる高島扇子は新しい特産品として注目されています。

13

高島ちぢみの 女性用ステテコ (高島)

「クレープのステテコ」は、夏を涼しく過ごすためのおちゃん定の定番アイテムですが、昨今のクールビズの波に乗って、女性用が登場好評を博しています。

14

工房細井袋物の 帆布かばん(高島)

地場産業の帆布を使い、丈夫でおしゃれな鞆、袋物が人気を博しています。丈夫で長持ちする一生ものは織物のまち高島の新しい特産品です。

15

玄匠工場の 柿染手染(高島)

柿染めは茶色というのが定番。玄匠工房では独自の研究の結果、色鮮やかな「玄匠染」を実現させ、三宅一生などのデザイナーやトップモデルに愛用されています。



© 穀粥



© 穀粥

18 千日回峰行者の装束(大津)

7年をかけて山を巡る千日回峰行。左右を巻き上げた松笠(ひがき)に白装束、八葉蓮華(はちようれんげ)の草鞋を履き、腰に死出紐(しでひも)と降魔(こうま)の剣を携える出で立ちらは修行の厳しさを表しています。

24 「夏草に富貴を飾れ蛇の衣」芭蕉(大津)

元禄3年に大津幻住庵にて詠まれた句。脱皮した蛇の皮を丸ごとお財布に入れると福が来るという言い伝えと関係あるのでしょうか。

19 大津組紐(大津)

江戸の中期、京に入る直前の大津の宿で武士や町人が刀の下げ緒や印籠の紐などを修理したことが始まりといわれています。百種類以上の組み方があります。

23 おほけなく うき世の民に おほふかな わがたつ袖に 墨染の袖(大津)

百人一首にも選ばれている、前大僧正慈円の句です。延暦寺境内に句碑があります。

20 びわ湖パール(大津)

万葉集に「近江の白玉」と詠まれた琵琶湖特産の淡水真珠はその独特の形が愛されています。水質の悪化や安価な外国産の影響で減少した生産を復活させようという動きが見られます。

22 秋の田の刈穂の庵の苫をあらみ わが衣手は 露にぬれつ(大津)

天智天皇の御製です。句碑が近江神宮の境内にあります。

21 びわ湖ホール 声楽アンサンブルの衣装(大津)

1998年のびわ湖ホール開館と同時に結成された専属アンサンブルです。その確かな実力が感じられる歌声とともに、浜ちりめん、高島ちぢみなど地元素材を活かした衣装が私たちを楽しませてくれます。



25 東レ滋賀事業場(大津)

欧米に約30年遅れて生産が始まった日本の人絹(じんけん)ですが、昭和の初めには世界一の生産を誇りましたが、きれいで豊かな水に恵まれた滋賀には東洋レーヨン、旭人造絹糸(のちに旭絹織)に譲渡、昭和レーヨンの3社で国内生産の約半分を生産し、滋賀は「レーヨン王国」ともいわれました。

26 みずかがみの被り物(大津)

昨年末に県庁で初めて餅つきが行われました。三日月大造知事は、近江米の消費拡大をPRするため、おコメの被り物で餅つきを行いました。



湖南

29

青花紙(草津)

着物の友禅染の下絵に使われる青花紙は、アオバナの花の汁を美濃紙に刷毛で何度もしみこませたもの。現在ではわずかししか生産されていませんが、その良さが見直されています。

28

竹根ステッキ(草津)

竹の根を使った鞭(むち)細工は江戸時代には草津宿の特産となっていました。その丈夫さ、持ちやすさから、チャップリンも愛用したといわれています。

30

あいの土山斎王群行(甲賀)

平安時代の雅を今に再現した斎王群行は、天皇のご名代である斎王を中心とした行列です。垂水斎王遁宮跡まで約5kmにわたって練り歩きます。

31

琵琶湖博物館のザリガニ(草津)

琵琶湖博物館で子どもに大人気のザリガニの巨大模型。ディスプレイの巨大型に入れれば、気分はすっかりザリガニです。うまく餌がとれるかな。



©霞粥



©霞粥

35

近江木綿正藍染め(湖南)

昔は、各農家で染めた糸を手で織り作られていました。今も藍の栽培から発酵・染色・織りなど昔ながらの技法が守られています。その深い色合いは「ジャパンブルー」と呼ばれ、深い味わいがあります。また藍には虫よけの効果があるともいわれています。



34

佐川美術館の「帽子夏」(守山)

身近な題材を取り上げたみずみずしい作品が人気の彫刻家・佐藤忠良氏の「帽子シリーズ」のいくつかを、佐川美術館で見ることができます。

32 忍者の衣装(甲賀) 甲賀といえは忍者。欧米や中国などアジアでも高い人気があります。ひとたび衣装に身を包めば、気分は忍者。



33

足桶(守山)

ヨシを刈る時に硬いヨシから足を守るために履いたもので、田が深い時にも履きました。オケナンバともいいます。昔の農作業の大変さがしのべれます。

27

澤田真一さんの作品のとげとげ(湖南)

アールブリュット(生の芸術)の代表的な作品としてベネチアビエンナーレにも出品された澤田真一さんの作品には「とげとげ」が一面にしているものが多いです。何を表しているのでしょうか。

湖東

36

フアブリカ村 (東近江)

麻織物の工場だった建物を活用し、近江上布や近江ちぢみなどを紹介する「つくるよるこびにふれる場所」染めや織り、絵画など様々な体験教室やカフェもあります。

37

木珠(近江八幡)

近江八幡の木珠は、聖徳太子が願成就寺を建立した時に製作技術を伝授したのが始まりといわれます。江戸時代から品質と生産量の高さは抜きんでており、全国シェアの70%に上っています。

38

彦根縷(彦根)

その存在感と配色は、着物の豪華さと華やかさを演出します。その技は大津祭や日野祭の幕にも生かされています。明治37年のセントルイス世界万国博覧会でも好評を博しました。

42

秦荘紬(愛荘)

大陸から機織りの技術を伝えたとされる秦氏ゆかりの秦荘は、養蚕が盛んでした。絹糸にならない屑繭で織った紬に「櫛押餅くしおしがすり」という特殊な染織技法で、手間暇かけて作られます。

41

元服池(竜王)

源義経が鏡の里で元服したのが3月3日と伝えられており、その時に使った元服池は今も水を湛えています。当時の儀式を再現した「鏡の里元服式」が毎年3月上旬に行われています。

40

真田紐(東近江)

かの真田幸村が考案したといわれ、刀の束や鎧織(かぶとじ)などの武具に使われています。全て手織りで、その用途は宮内庁関係と高級茶器、美術品等の箱紐の一部に限られています。

39

井伊の赤備え (彦根)

よろい、兜はもちろん、馬具や旗など全てを赤一色に揃えた井伊家の二軍は、「井伊の赤鬼」と恐れられたといえます。彦根城博物館で見ることができ、今年県指定有形文化財になりました。

43

新之助上布 (彦根)

上質な麻織物として知られる近江上布。「捺染(なせん)技法」の技と美しい手織りの風合いが軽やかに体になじみます。

44

八幡靴(近江八幡)

履物や太鼓などの皮革製品の生産が古くから盛んで、明治の初めには紳士靴の生産が盛んになりました。靴づくりの体験教室や後継者育成にも力を入れています。

45

フォーティナイナーズ のビンテージジーンズ (東近江)

生地、糸、ミシンにもこだわり、1900〜40年代のジーンズを高い縫製技術で再現。どこにもまねできないジーンズで東近江の活性化を目指しています。

46

彦根ファンデー ション(彦根)

明治期の富国強兵策の一環で彦根で盛んになった製糸業。足袋の生産が中心でしたが、時代の流れとともに女性の体のラインを美しく整えるファンデーションへと移り変わっています。

49

にんげん雛まつり (東近江)

毎年2月～3月末日にかけて五個荘で行われる「商家に伝わるひな人形めぐり」の一環です。東近江市の観光をPRする「東近江市レインボー大使」と、

地元のお雛さまにふんし、近江商人の豪華な雛飾りをでつかく再現します。



50

近江商人の旅姿 (日野・東近江)

縞の小袖を尻端折り、菅笠(すげがさ)をかぶり、手甲(てこう)、脚絆(きゃはん)、合羽(かっぱ)を身に着け天秤棒を担ぐ旅姿。全国を歩いて訪ねた近江商人。

48

たがゆいちゃん (多賀)

多賀大社の巫女さんにちなんだ永遠の5歳。公式ブログも持つ多賀町の人気マスコットキャラクターです。



52

おはな踊りの衣装(甲良)

北落・日吉神社では毎年8月、若者が白い半襟袷に鉢巻き・たすき掛けで胸に太鼓、背中にホロの華やかな出で立ちで雨乞いのお礼踊りを華麗に舞います。国の無形民俗文化財。

51

手織りの里 金剛苑(愛荘)

藍染めの見学や秦荘細織りの体験など、近江上布や秦荘細の特性や美しさを実感できます。織機などの道具や材料の展示や休憩所、工房もたっぷり楽しめる施設です。

47

あかねさす紫野ゆき 標野ゆき野守は見ずや 君が袖振る(東近江)

万葉集の中でも最も有名な相聞歌。ムラサキは、東近江市の花。その根が染料に活用されてきました。この歌を題材にした宝塚歌劇「あかねさす紫の花」(1976年初演)もあります。

53

彦根製糸場(彦根)

世界遺産となり人気急上昇の富岡製糸場では彦根出身の女工がたくさん働き、その技術を活かした彦根製糸場が彦根藩の屋敷跡で操業していました。

後口上

しがのええもん衣編くはいかがでしたか。素材も技術も実に多彩。「衣」から見ても滋賀の豊かさ、奥深さが一層強く感じられますね。他にもいろんな五十三次がありそうです。また、何かの「五十三次」でお目にかかればと思います。

●しがのええもん五十三次勝手に編集委員会II古くからの交通の要衝で東海道、中山道、北国街道など県内にたくさんはりめぐらされている街道にちなみ、滋賀県内のおいしいもの、素晴らしいものを自己流で選び、紹介する滋賀大好き集団。

寄稿

子どもたちにも大切なことは……

松尾寺からのメッセージ

こんどう ようこ
近藤 洋子

醒井楼

思ったようにいかないのが、この世の常と言います。「失敗を恐れないで」と言うのは容易いですが、理想と現実の狭間に悩んでいるあなた、チョット一息つきませんか？歴史や文化に触れ、自然の恵みに感謝するスローな生活体験から学ぶ“心のゆとり”。松尾寺山中の仮称ゲバントハウスを活用してみては？

■普門山松尾寺（米原市醒井）

■2015年3月

旧本堂にあがる石段



修験道の祖・役の行者

松尾寺について

松尾寺は、6世紀後半、修験道の祖「役行者」が入山したことが起りです。その後伊吹山三修の高弟・松尾童子が当寺の中興に力を注ぎました。松尾寺山（標高504メートル）は山岳信仰の寺院として発展してきました。

当寺には不思議なお話が伝わります。ご本尊が空より降り立ったと言われる影向石、山頂には「役行者の斧割の水」と称する湧水の水源、悪いことをする人は通れないというハサミ岩等があります。学校が週6日制の授業であったころ（2001年度以前）は、地元の小学3年生の秋の遠足の人気スポットでした。

空から飛んできた観音様 「飛行観音」

古来より人々は、空を飛んでみたい、という憧れを抱いてきました。当寺には、飛行のロマン漂った歴史や寺宝が伝えられています（天狗の爪や馬の角等）。

飛行観音様は、飛行機の発達につれ、航空機関係者や旅行者の無事を願う人々の篤い信仰を集めています。航空科学は、宇宙へ向けて目覚ましく進歩しています。当観音様は、より一層の人々の空の安全・安心の守り本尊として親しまれています。

2012年山麓に新本堂が再建されました。癒しや安らぎを求めて、近江西国33観音礼所（第13番）、びわ湖108霊場（第50番）に参拝される人々の心の安寧・心のより処のお寺でありたいとの思いです。

新本堂には岐阜県各務原飛行学校寄贈の木製プロペラが鎮座しています。戦後70年を迎え、戦争当時の記憶を風化させないように、当時、訓練を終えた特攻隊の若者が訪れ、南方へと飛び立つて逝ったという悲劇を繰り返さないでほしいと願っております。

地域に根ざした取り組み

終戦の食糧難に、当時の住職は当寺が養鱒場に隣接していたことからマスを

石造九重塔（重要文化財）（左）



本堂の上方を見ると、木製プロペラに出会えます（右）





- ① 醒井楼入口に咲くボタン
- ② 子どもたちとマス釣り体験
- ③ 炭火で焼いたマスの塩焼き
- ④ マスづくし料理

世に出す努力をしました。あわせて、里の発展や将来の展望（林道整備）を願い、山麓に遊園地づくりを始めました。その後、脇を流れる谷川でマスを釣って炭火で焼いたことからお食事処を営むようになったのが「醒井楼」の始まりです。豊かな湧水や地産地消の旬の食材を活かしています。子どもたちは釣り体験で、マスが釣れなければ釣れないほど、釣れた時の感動が深まります。さらに炭火で焼いたマスを食べる子どもたちは笑顔にあふれています。「いただきます、ごちそうさま」に感謝の意を伝えられます。

先代79世は、里山の保全活動（地元河南中学校の親子植樹林、林研グループの展示林等）、野鳥や動物との共生（実のなる木々の植樹）、山内に散在する史跡探訪や松尾寺七不思議遊歩道づくりに取り組みました。そして、松尾寺山は潤いと安らぎをもたらす『生活環境保安林』の指定を受けました。『醒井の七湧水』は歴史や伝説にまつわる豊かな湧水を愛した野口雨情（1938年来醒）の唄とともに幸せを呼び、自然との共生にあやか

る町づくりは人づくりと重なりました。

仮称「ゲバントハウス」の活用をどう！

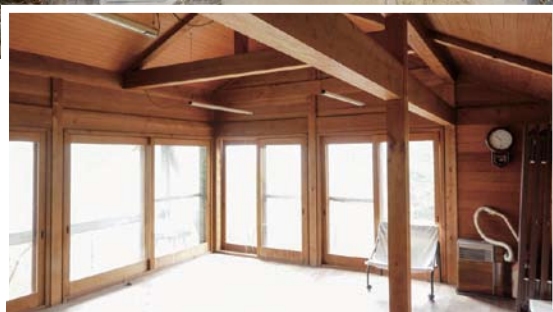
1988年、雄大な霊仙山の眺望が開ける山中の中腹に上丹生木彫伝統工芸研究所「ゲバントハウス」が建てられました（現在は無住）。

子どもたちが山中の歴史や自然に触れ、スローな生活を体験できる場所として活用できます（湧水が有り、電気使用可です）。

思い思いの体験に挑戦してみてください！

人生の中で少年期は不自由な経験をすることや回り道をするのも大切です。自然の中での体験や仲間たちとの共同生活から学ぶことは、生きる力の大きな支えとなる（どうして）でしょう。

松尾寺山の豊かな水を育む緑の山々に囲まれ、先人たちから文化や歴史の遺産を受け継ぐ私たち。自然災害や環境汚染に危機感を持っています。その中で、青少年の健全な育成は、どのようにすれ



ゲバントハウス外観(上) 広々とした空間の室内(下)

〈ゲバントハウス利用例〉

- ✳ 山中でのウォークラリーや松尾寺の七不思議を歩く
- ✳ 山の恵み(山麓のマス釣り、魚つかみ等)を自分たちで料理する
- ✳ 山の水を汲み、薪を拾い、薪割りをしてお風呂を沸かす
- ✳ 夜はテレビやゲームから離れ、のんびりとした自由時間を楽しむ
- ✳ 心静かに座禅や、お写経会(日本では唯一人の三蔵法師ゆかりの地です。「靈仙」の大乗本生心地観経『四つの恩』約80文字がおすすりめです)

ば実現できるのでしょう?、「幸せ」の中身を見直し、次世代を担う子どもたちに安らげる居場所をつくることではないでしょうか。『物(人)を大切に、思いやる感謝の心で、ホットな家庭づくりーM.O.H.E.Eー』、私たち自身の生き方を問い直したいものです。

温故知新
山崎洋子

● こんごうようこ 1945年滋賀県長浜市生まれ。長浜北高校から関西外国語大学短大卒業後、京都ホテルへ入社。1968年スイスアローサでの海外研修とその後、醒井楼や夫(1999年急逝)の松尾寺の里山づくりの生き方に影響を受ける。

○ 松尾寺山中醒井楼

滋賀県米原市上丹生2054

TEL: 0749-54-0120

<http://samegaito.sub.jp/worldpress/>





ご参加いただいた皆様と記念撮影

〈M・O・H活動-1〉 M・O・H通信読者交流会 「M・O・H Cafe2」 開催しました

第2回目となるM・O・H通信読者交流会は、「M・O・Hの原点」をテーマに開催しました。お集まりいただいた参加者は63名。企業や市民活動団体や主婦など、世代や活動分野を越えて多くの方々の交流の場となりました。

「みんなでつくろうM・O・Hな暮らし」では、各団体の活動紹介を聞きました。昨年の第1回「M・O・H Cafe」がきっかけとなって発足した「M・O・H塾」も、1年間の成果を発表しました（M・O・H塾のレポートは52ページ）。

「M・O・Hの原点」といえば、アイトワの森孝之氏、麦の家の山崎隆氏の暮らし

です。40年かけて1000坪の林をつくり、現代技術をうまく取り入れながら可逆的な生活を追究している森氏、比叡山の麓で昔ながらの自給自足な生活を実践する山崎氏によるお話は、これからの持続可能社会のモデル生活、また懐かしい未来として、参加者から大きな関心を集めました。

理念は浸透しつつある。では、どうやって実践していけば良いのでしょうか？ M・O・H通信執筆者懇談会のリーダー的存在である内藤正明氏にご執筆いただきました。



①挨拶をする森氏(左)、司会の花田氏(右) ②来賓の藤井市長 ③M・O・H塾のお姉さん村上氏 ④プータンを紹介する野阪氏 ⑤よばれやんせを楽しく北井氏 ⑥農と女性に活力を中村氏 ⑦文化で滋賀を活性化本田氏 ⑧人のつながりを生み出す奥野氏 ⑨循環型の暮らしを活かして森孝之氏 ⑩M・O・Hの原点の実践者山崎氏 ⑪詩吟を披露井上氏

「備考」この詩の構造は平起り七言絶句の形であって、上平声一東の韻の風、隆、豊の字が用いられている。

「意解」清明さが部屋に満ちて和らいだ空気を醸し、善友が集って喜びで盛り上がり、御蔭様の心が仲間を増やし、程々の精神は徒な豊かさを節制するのである。

清明満座 釀和風 清明座に満ちて和風を醸し
善友萃然 喜悅隆 善友萃然として喜悅隆なり
御蔭様 心増有志 御蔭様の心は有志を増して
程々精気節徒豊 程々の精気は徒豊を節す

『M・O・H詩吟』

井上幸声

- ◆日程：2015年3月15日
- ◆場所：長浜ロイヤルホテル
- ◆参加：63名
- ◆主催：M・O・H通信執筆者懇談会、M・O・H通信
- ◆スケジュール

13:30 オープニング(司会：花田真理子氏)

- ・開会挨拶 森建司
- ・来賓の言葉 長浜市長 藤井勇治氏

「みんなでつくろう M・O・H なくらし」実例紹介

- ・M・O・H 塾(村上瞳氏)
- ・プータンミュージアム(野坂 弦司氏)
- ・M・O・H 活動(辻村琴美)

- よばれやんせ湖北(北井香氏)
- なでこファーマーズ(中村貴子氏)
- 美の滋賀語り部マイスター(本田明氏)
- 環人ネット(奥野修氏)

- M・O・Hの原点～M・O・Hな暮らしの先駆者の話～
- ・「アイトワの生き方」アイトワ 森孝之氏
- ・「簡素で祈りある暮らし」麦の家 山崎隆氏

質問&交流タイム「M・O・H Cafe」

- ・コーディネーター 内藤正明氏

フィナーレ

- ・お礼の言葉、M・O・H 詩吟 井上昌幸(幸声)氏
- ・記念撮影

16:45 終了



会場からの意見に答える内藤氏(左)、森孝之氏(中)、山崎氏(右)

これからの M・O・H活動の 進め方

—議論から実践へ—

な い と う ま さ あ き
内藤 正明

琵琶湖環境科学研究センター長

■ M・O・H 10周年を期して

これまでのM・O・H理念の議論から、そろそろ具体的な実践活動に進みたいという気持ちだが、森会長を中心とする幹事メンバーには以前からありました。昨年の10周年記念のカフェの場において、会員の皆さんもその思いを共有されていることを感じました。それを契機として早速に「M・O・Hカフェ」と「M・O・H塾」という二つのグループが活動をスタートしましたが、「カフェ」は実践に向けた勉強を、「塾」は実践活動の開始を目指す準備を志向するものと理解しております。

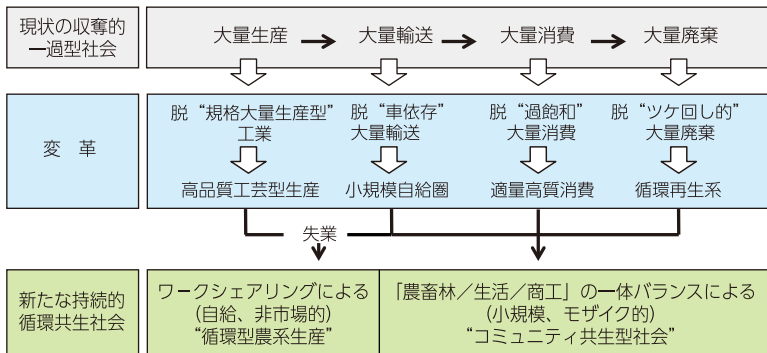
そのような動きを踏まえて、今年の第二回M・O・Hカフェは、これまでの勉強・議論から実践活動の具体的な動きを作れないかとの含みを持って開催されました。そのため、改めて「M・O・H実践の原点」ともいえる二つの代表的な事例の報告をいただくことにしました。M・O・H社会づくりが最終目的ですが、それは一足飛びにはいきませんから、まずその基礎要素としての“家庭”での具体事例

として、これまでM・O・H通信でも取り上げられてきた、①“アイトワ”森孝之氏と、②“麦の家”山崎隆氏に基調講演をお願いしました。この二つの家(家庭)のことを、今回は直々に、しかも一度にお聞きできる貴重な機会となりました。予想通り参加者全員が大変関心を持たれたようで、それは、講演後の質疑応答で皆さんから、時間が足りなかったという意見が相次いだことでも明らかです。

■ 実践行動の難しさ

これら二つの話を聞き、そのような家庭づくりが自分たちにもできたらいいと、参加者皆さんが思われ、自分たちで何ができるかという話になりました。しかし結論は、自分たちの置かれた状況の中でできることは限られているということです。その理由は二つあって、①「与えられた環境」として、かなりの規模の土地資源が必要ということ、②「自らの能力」として、持続可能なM・O・H社会の要素としての家を創るための力(理念、知恵、努力)が必要ということです。これら2つはかなり大きな壁で、それが

表1 持続型社会の特性を示すキーワード



- ・自然力利用／・資源エネルギー節約／・環境負荷の低減
- ・コミュニティ再生／・互酬の喜び／・市場と非市場の融合
- ・食糧自給率向上／・途上国の環境収奪軽減
- ・自然との触れ合い／・(子ども)健全な生命観、自然観の形成
- ・地方分権／分国的自立／自由と計画のバランス

乗り越えられなければならない、一步を踏み出すこともできないでしょう。ではその壁をどうしたら越えられるでしょうか。普通この国では役所が、助成とか法制度など

その姿はさまざまですが、共通する思想は今日の石油文明、産業社会、資源多消費社会に対するアンチテーゼとしての社会づくりといえるでしょう。

で何とかしてくれると考えます。しかし、アベノミクスに象徴されるように、これまでも現在も我が国が目指してきた方向をみると、M・O・Hの理念とは逆方向でしたから、当然のこと地方行政もそうであるのは仕方ないことでしょう。だとすると、どうしても自分たちの知恵と力で頑張るしかないということになります。

実は、古くから世界中で多くの類似する試みが、主に市民の力でなされてきました。世界工コビレッジネットワークはそのような村づくりを世界規模で連携するネットワークです。また日本でも各地でこの種の試みが見られるようになってきました。それらは、地域毎の特徴や目指すところなどが少しずつ違って、

■M・O・H社会づくりの手順

M・O・H参加者が今回の「アイトワ、麦の家」に触発されて、何とか自分たちもそのような「M・O・Hな家(家庭)」をつくり、それを地域からさらに市町、国へと広げていくことを目指すとしたら、まずは先人のモデルに倣って、その上に、いまの時代に自分たちが求める要素を加えていくのがやり易いでしょう。

市民が主役でつくくることを目標にするなら、まずは家庭から始めて、コミュニティレベルへと順に広がっていくでしょう。その作業手順を各地の実践例をみながら整理してみると、およそ以下のようなものが想定されます。

- ①志を一つにする同志が議論をし、目指すべき社会像をおよそ描き、その実現に向けた一応の役割分担を決める。
- ②古民家、廃校などを活用した活動拠点を設ける。その周辺には農地と林地、溪流などがあることが望ましい。
- ③それらの自然資源を活用して「衣食住」を賄う。そのための技術はこれまでの資源多消費型技術とは対極にある



表3 これからの技術が従う原則

表2 技術と都市変革のキーワード

原則1.「自然環境が受入可能な容量以上に負荷を与えない」

- 地下資源由来の物質の濃度を自然界で増大させない
- 人為的に製造した物質を自然界で増大させない
- 自然生態系の基盤を損なわない
- 地域圏域(バイオリジョン)の中で原則的に「自立」し、他にいかなる負荷も原則的に及ぼさない



原則2.「すべての人に等しく幸せを与える」

- 圏域内での社会の豊かさを最大化する
- 豊かさの内容はその地域の人々が選択する
- 豊かさの配分はすべての人々の合意による

社会の転換

無限社会	有限社会
規格／大量生産 <ul style="list-style-type: none"> ・ 経営効率 ・ Stock-holder ・ 世界共通 ・ 工業的生産 	多様／適量生産 <ul style="list-style-type: none"> ・ 資源効率 ・ Steak-holder ・ 地域固有 ・ 工芸的生産
消費社会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 供給側主導 ・ 使い捨てる商品 ・ 物の所有／消費 	市民社会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用側主導 ・ 高品質長寿命製品 ・ 物／サービスの利用
資源消費 <ul style="list-style-type: none"> ・ 非再生的 ・ 非分解的 	資源循環 <ul style="list-style-type: none"> ・ 再生的 ・ 自然還元
経済効率社会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 大規模工業化 ・ 大都市集中 ・ 貨幣価値重視 	新たな豊かさ社会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 農工商バランス ・ 都市と農村の連携 ・ 非貨幣価値重視
競争原理 <ul style="list-style-type: none"> ・ グローバル化 ・ 経済発展動機 	共生倫理 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域自立 ・ 人との共生動機

- 大するに当たって、自発的に参加する人に広げていく(無理な拡大は分裂・崩壊に繋がる)。
- ⑥ 「流通」「交通システム」「商業」などの社会システムは、市域に拡大する段階で議論が始まる(表1、2)。
- ⑦ 県から国レベルに広げるときに、産業、交易、などをM・O・H理念に従ってどう方向づけるかを検討し、それを広く説得していくことが必要(表1)。
- ⑧ そのような国をつくっていくために、M・O・H理念をどう広げるか。

もの(その特性は表2、3)で、それを皆の知恵と工夫で創る(その過程こそ重視する)。

④ 技術を並行して人と人の関係性、ライフスタイルを、M・O・H理念に則って選択する。

⑤ 拠点づくりの成果を「コミュニティ」に

いま余呉のM・O・H塾で始まった活動が、まさにこの手順で進みつつあるように見えます。M・O・H読者の中から発した社会づくりの実践第一号として、成り行きに注目しましょう。

知 足
内 藤 心 明

● ないとうまさあき 1939年大阪府生まれ。1962年京都大学工学部卒業。1969年同工学博士、1974年国立環境研究所主任研究官、1990年同統括研究部長、1995年京都大学工学研究科教授、2002年同大学院地球環境学学長。

現職／吉備国際大学地域創成農学部、京都大学名誉教授(NPO)循環共生社会システム研究所・代表理事、(NPO)KES環境機構・代表理事、他。

著書『持続可能な社会システム』、『地球環境と科学技術』岩波講座など。

活動／持続可能社会の理念と実現方法に向けた研究およびその実践活動。



非電化工房と0円プロジェクトを紹介する藤村氏

〈M・O・H活動-2〉

第4回M・O・H塾

M・O・Hな未来を 一緒に築きませんか？

～非電化工房藤村氏の講演会から感じたこと～

しみず ようすけ
清水 陽介

どっぼ村 エコワークス代表

「自分らしさを生き方で表現したい」と願う若者が増えてきました。自然の中で暮らしを謳歌しつなかりを広げていくにはどうすれば？日本の百姓は、百の姓（仕事）をこなせるスーパー暮らし人です。ITを駆使した現在の若者が、どんな風にクリエイティブしてくれるのでしょうか？

■古民家源佐（長浜市大音）

■2015年3月11日



思いもかけず大雪でした。
ベビーを胸に

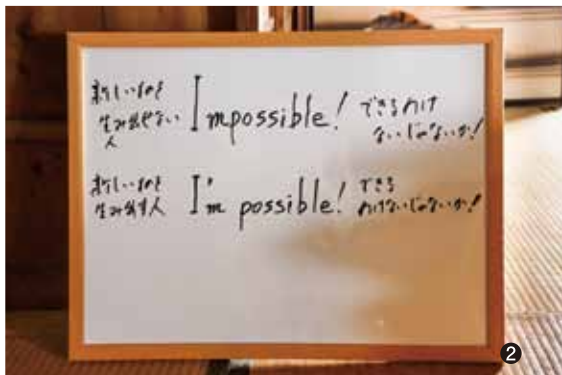




1



3



2

①わくわくして発明家藤村氏の話に聞き入ります ②できるわけないじゃないか (否定) → できる。わけないじゃないか (肯定)
③お昼はおにぎりとトン汁と。待ちきれないねえベビーちゃん

第4回のM・O・H塾は栃木から非電化工房の藤村氏にお越しただだき、実に興味深いお話を聞くことができました。あいにくの大雪でしたが、90名の応募があり、80名近い方が参加してくださいました。

藤村氏のお話では、ドイツやアメリカでは若者を中心に0円プロジェクトが広がりを見せているそうです。何人かでグループになり、お互いが不要なものを交換し合って、できるだけ支出を減らして支出0円に近づけるとい

プロジェクトですが、すでにドイツでは3000ものグループができています。そうです。

このような取り組みが広まったら、果たして経済はどうなるの?と思う方も多いと思います。しかしこのままの大量生産、大量消費、大量破棄の世の中では、地球がどうなるの?という声も聞こえてきます。

未来に対して責任のとれる暮らし方は何も特別なことではありません。それぞれの仕事、生き方の中で共感とシェアが進めば、新しい暮らし方が見えてきます。時代が全体主義から個人主義に、そして今、共感主義へと変わりつつあります。

どつば村は8年も続き、小さな集落に若者たちが移住してきました。農業と建築という異業種がドッキングしたことが始まりでした。M・O・H塾でそれぞれが持っている小さな自慢を持ち寄りましょう。それぞれの得意技がドッキングしたら、きっと新しい何かが生まれるはずですよ。

地域デザインや未来デザインをこの地

域に暮らす我々自身からスタートさせたいと考えています。絵に描いた餅ではなく、生命の鼓動が聞こえるプロジェクトは10年も続けば、歴史となって次世代に繋ぐことができます。

”人生は立方体だ”(何だ突然!)

横への広がりとは知識や交流、縦への広がりとは具体的な能力(技術)や行動、そして意志。できることへの安心感、誰かのためにやれるという社会性を帯びます。これを”上位概念”というふうに呼んではいかがでしょうか。未来はその上位概念の連続性の中にあります。

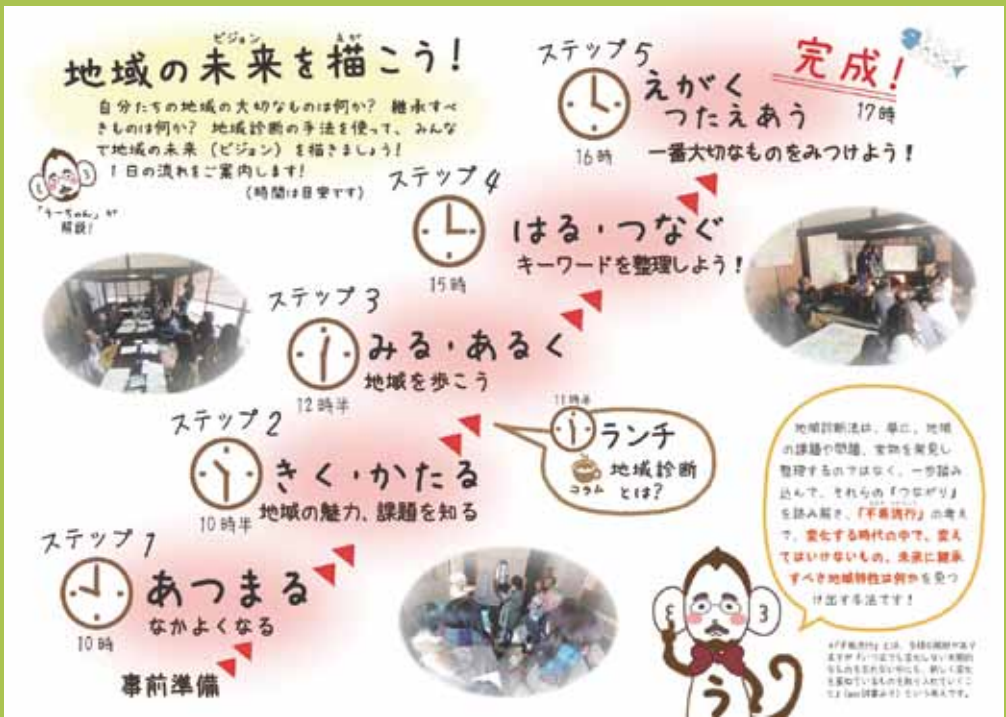
私たちはそれぞれの時間を生きています。なのに人と比較したり、勝手にままに生きていたりします。自分自身の中に、自分らしい上位概念を置いてみてはどうでしょうか。自分も社会も変わって見えるはずですよ。何ができるかでなく、単純に何がしたいかを素直に問いかけるだけでいいと思います。

次回のM・O・H塾は果たしてどんな人たちが来るのか、see you!

第6回M・O・H塾は
7月下旬に、
長浜市木之本町の藤ヶ崎で
開催予定。
M・O・H塾のお問い合わせ
村上瞳
meilihtm@yahoo.co.jp

春は華夏に涼風
秋は月 冬に雪あふる
足らぬものなし

●しみず よつすけ 1955年生まれ。
彦根工業高等学校卒業。1976年から
1979年にかけて海外を自転車で放浪。
帰国後、10年間の大工修行を経て、19
89年から農業を始める。フンティ百姓
(農業体験)企画等の環境活動と講演活動
を行い、1996年にエコワークスを設立。



6時間でワークショップできる!

環人ネットの活動報告

地域の魅力を考える

～地域診断ワークショップの実践～

う か い おさむ
鵜飼 修

NPO法人 環人ネット 事務局長

私の住んでいる町には、どんな魅力があるのだろうか? 私のルーツはどこにあるのだろうか? この建物はなんだろう? 身近なものを知らないなあ。どうすればいいんだろう? 小学生と大人が一緒になって考え、意見を出した。実り多い一日となりました。あなたの地域でもいかがですか?



地域診断のやり方が掲載されているハンドブック

経済成長に頼らない豊かな暮らし

地方創生が唱われ、現在各地で様々な取り組みがはじまろうとしている。しかし、本当の地域の魅力を知らないまま、活かすことがないまま、東京や他地域のまねごとをしてしまつては「もったいない」。日本は、どこに行つても同じ金太郎アメのような地域振興がなされてきたが、その多くは地域の本質を理解してなされてきたものではなかった。反対に地域を否定してきた感もあった。

これからの日本は人口減少の時代。文明開化以降、急激に増えた人口が急激に減ろうとしている。そうした中で、私たちに必要なのは、「経済成長に頼らない豊かな暮らし」の創造。地球上で「ただけの私たちの「地域」の魅力を再認識し、活かすことが求められている。

地域診断ワークショップ(WS)は、そうした地域の魅力を改めて発見し、共有する手法である。滋賀県立大学大学院「近江環地域再生学座」で実践的に開発されてきた、エロシカルプランニング(生態計画)の手法を応用したマトリック

クス分析による地域の魅力の整理である。しかし、この手法は大変手間がかかるので、その要点を凝縮し1日で実施可能な手法として開発されたのが地域診断WSである。

地域診断WSの要点は、地域の情報を整理し、その「つながり」を読み解くこと。マトリック形式では、地学的、気象的、生態的、人為的特性の4つの側面から地域の情報を3段階のスケールで集め、そのつながりを読み解いていく。例えば、地学的特性であれば、標高や地質、水系などの情報をおつめる。そのデータを取捨選択し、マトリック状に並べ、それらのつながりを解読していくことで、その地域の持つ本当の魅力が見えてくる。これを地域診断WSでは簡略化して行う。地域について語り合う、まち歩きをする、情報を整理する、つながりを読み解く、という一連の作業となる。

12歳が考える

WSの構成員は、地域の人、よそ者としての学生、そしてファシリテーターとしてのNPO法人環人ネットのメンバーで

彦根市立稲枝北小学校6年生





①ワークショップ風景 ②小学生と大人のワークショップ。年の差が半世紀 ③現地視察でも興味津々 ④まとめを発表。
うまくまとまったかな？

小学生とおとなのWSの結果を比較したが、その結果にそれほど違いがない。たった1日のWSでも地域の本質的な魅力は限られるのでその結果にたどり着く方法としては有効である。また、多世代でWSを開催すること自体が地域のつながりやビ

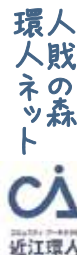
思いは同じ

地域に子どもたちが分かれて地域診断を行い地域の特徴を明らかにした。

ある。環人ネットのメンバーは「地域診断」に理解のある人員である。この構成員が1日集まり、WSを実践している。昨年度より滋賀県立大学のCOC事業公募型地域課題研究として、彦根市稲枝地区まちづくり協議会との共同研究が推進されている。現時点で計6回(9地域)の実践、検証がなされた。うち、1回は稲枝北小学校の6年生の授業として取り組み、4地域に子どもたちが分かれて地域診断を行い地域の特徴を明らかにした。

ジョンを共有できると好評でもある。地域診断WSのノウハウをまとめたハンドブックは現段階では無償で提供している。1日かかるとWSになるが、地方創生に取り組み前に是非とも各地域で実践していただきたい。

お問い合わせは 環人ネット事務局
北村 090-1969812564まで



つらねるモテサイン
軽剣竹

●うかいおさむ 東京生まれ。彦根市下石寺と東京都大田区の2地域居住。2006年滋賀県立大学大学院に設置されたまちづくりの担い手(「ミニユニティ・アーキテクト」育成プログラム「近江環人地域再生学座」)を担当。滋賀県内、大田区大森、南三陸町田の浦、福岡県大牟田など各地でまちづくり活動を実践。著書に「地域診断法」新評論(共著)、「小舟木工村ものがたり」サンライズ出版(共著)、「ミニユニティ・ビジネスのすべて」ぎょうせい(共著)、など。

しきたり

三山 元暎



さし絵:中川 善雄

ヴェルサイユに咲いた華麗な花と呼ばれ、フランス最後の王妃として断頭台に消えたマリー・アントワネット。フランス革命によって数奇な生涯を終えた歴史上の人物であるが、王家の「しきたり」にはずいぶん苦しめられたという。

有名な話であるが、王妃が召し物を着替えるときは、そばで仕える人の中で一番位の高い貴婦人がこれに当たることになっていった。い

ざ着替えという段階でこの人より位の高い人が部屋に入ってくると、下着はその人の手へ次々と移り、その間、王妃は裸のままぶるぶる震えながら待っていたという。

私たちの地域や身の回りを見ても、今なお悪しき「しきたり」に振り回され、自分自身を見失ってしまうケースがま

だまだあるように感じる。自分の愚かさ、人間の愚かさにごうかされてもらいたいのだ。

石ばしる垂水の上のサコ殿の
萌え出づる春ににけるかも
(志貴皇子・万葉集卷八)

この歌から万葉時代にもワラビ採りが、大宮びとの大事な行事であったことがうかがえる。はるか万葉の昔から日本人の生活に密着している山菜摘み、ことしも早春から初夏にかけて、ずいぶん楽しませてもらった。

長浜のまちが曳山祭で華やぐ頃には、残雪の山峡に分け入ったワサビ摘み。木々が芽立ちみずみずしい若葉の季節が到来すると、鶯のさえずりを聞きながらのコシアブラ採り。湖北一円が、わが山菜摘みのフィールドである。

ところが、昔の人たちが貴重な自然の恵みを分け与えてもらうかわりに大切にしてい

きた作法が、いまや乱れに乱れている。ワラビを見つければ必ず何本かは残し、タラの芽の二番目は摘み取らないようにするなど、自然の命を守り抜いてきた先人のよき「しきたり」は、何処へ行ってしまったのだろうか。心さみしい時代になった。

三山 元暎

●みやまもとあき1940年滋賀県坂田郡山東町(現・米原市)生まれ。長浜市の理事・経済部長を経て1995年8月から2005年2月まで山東町長。同月14日米原市との合併にともない退任。真宗大谷派真勝寺前住職。

悠々自適

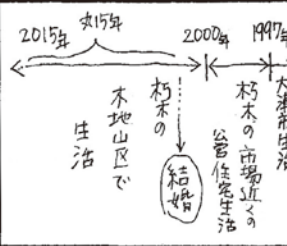
中川 善雄

●なかがわ よしお1936年生まれ。滋賀県展、長浜市展、伊吹を描く絵画展など入賞、入選歴多数あり。税理士。

山暮らし子育て日記

作:オバキキ

木地山で山村暮らしを
始めて、丸15年。



迎所付き合ひ...
自然満喫...
いいニビ...ばいあるけれど...

今回は、
敢・え・て!!
苦勞話を
させていただきます!!
先日、中2の息子が
通う中学校から電話
目元が怖いよ、うなづ
迎えに来て下さい。

中学校まで車で
20分。
保健室で、いつも
元気な息子が、真、白
顔でくったりしている。
あれ、珍しいね。
腹、けい...
きもちわるい

出直すことになったら
やっかいなので
医者に行っておか
と、そのまま30分かけて
かかりつけの医療へ。
すると、
夕方まで
点滴
しよか
えー? 何?!!
しかし、良くならないので
お医者さんが呼んで来て
救急車で大津の病院
に。

大津の病院から
木地山まで1時間半。
入院です
入院です
ニニウイッ?
それなら、な、な、なさんと
土曜腸と診断
ニンニク
ガラン代も
バカにならんぞ



田舎暮らしをしたいので、お話を聞かせて下さい、と言つて訪ねてくれる方がちよこちゃんいらっしゃいます。人口が増えることは大歓迎。自然の中で子育てできることや大声を出しても近所迷惑にならないこと、お金をかけずに楽しく遊べることなど、田舎の長所はいっぱい。

しかし！訪ねると住むのとは違います。楽しさと同時に大変さもありますよ、といつことも話します。そのひとつが、今回のような思わぬ事態が起こった時、予想以上の苦勞が付きまとうこと。

息子の場合、かかりつけのお

医者さんの的確に判断してくださったおかげで大事に至らず、わずか5日間の入院で済みましたが、往復3時間以上の運転はやっぱりきつかった！（減多にしない大津でのショッピングもちよっと楽しんじやいました）

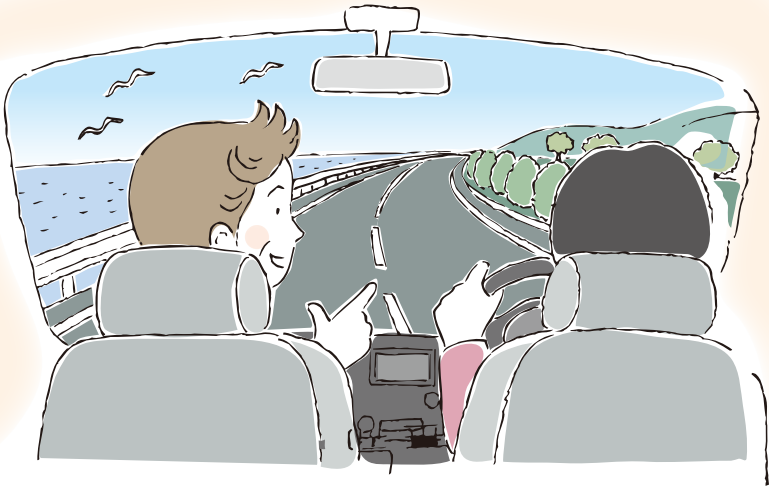
また、台風や雪で車での通行が危険になったり労働が増えたりすることも。なので、田舎に暮らしたい、と言う人には、気候や天気がいいときだけでなく、悪い時にも訪ねてみることをオススメします。

悪条件をクリアすれば楽しく暮らせること間違いなし！です。

● 本名加藤みゆき。人口17人の集落に住み3人の子育てに奮闘中。将来、家族で海外へ旅行するのが夢。

畑さん

今関 信子



イラスト：千田 満

畑裕子さんを思い出している。二〇一四年五月三日に亡くなった。本誌の読者なら、彼女が書いたエッセイを、記憶に留めているかもしれない。

私達は、現在は長浜市となった旧近江町の「母の郷文学賞」の選考委員だった。彼女を思う時、花冷えの日の桜と真つ赤なカーネーションを思い出すのは、審査委員会と授賞式の印象が濃いからだ。

彼女は女性の特性を、しなやかさと忍耐強さに見ていたように思う。芯の強さを持つ人も、好きだったのではないかと。彼女自身がそうだった。

私は、度々、畑さんの運転する自動車の助手席で揺られた。そして、度々、「畑さん、どう思う?」と言った。たいていの時、私は腹を立てていた。なだめ役に回る畑さんは、「そうねえ。だけど……」と、必ず自分の意見を言った。

母の郷文学賞のことで、湖北に出向くときは、たつぷりと時間が与えられた。私達は、二人が関わる会のこと、

雑誌のこと、社会問題など、とめどなく語り合った。他愛ない会話も交わされた。

畑さんは、話題を逸らさなかったから、二人の間には対話が成り立った。思いが行き交い、より深い信頼が生まれた。二人だけで過ごすこの時間が、私にとっては、刺激のある豊かな時間だった。

ある日、畑さんは「私、名前が正しく呼ばれていないのよ。ほんとうはひろこのなの。」としばらくと言った。何度か訂正したのだが、それでもゆづこと読まれたと言った。「どっちでも良いのよ。」と、畑さんは笑って話した。いまでも畑さんは、はたゆづこと呼ばれている。もうゆづことでないを通らない。

ゆほどのことになると、畑さんは声を高くしてモノを言わなかった。でも、モノ申さぬ人ではなかった。

「戦争はしたくないねえ。文学活動は平和な暮らしの中で、より豊かになされるものじゃないのかな。殺したり殺されたりする日々の中では、生きる

のが精一杯だもの。平和でなくては……。」

夫と築いた暮らしを振り返り、子どもたちのこと、孫のこと、あれやこれや語り合いながら、私達は平和な暮らしのありがたさを確認し合ったように思う。

あの語り合いの時畑さんは、「私、立つときは立つわ。」と覚悟が伺える言葉を吐いた。あの時の彼女が忘れられない。私達は二人とも感覚的に、最近吹いている風に心地よくないモノが混じっていると感じていた。

畑さんは、五月三日に帰らぬ人となった。日本国憲法が施行された記念の日を選び取ったように。

私は彼女を揺すって、揺すって、揺すり続けて、彼女に起きて来てもらいたい。そして、いっしょに歩きたい。とめどなく語り合いたい。

友を失って一年が過ぎる。また二人で愛でることができたら、どんな花でもいい。どんな咲き方でもいい。見たいなあ……。畑さん……。

共に生きてこそ

今問屋子

●いませきののぶこ 1942年、東京生まれ。東京保育女子学院卒業後、幼稚園教諭となる。7年間保育者として働いた後、創作活動にはいる。日本児童文学者協会理事。

〈主な著書〉『小犬の裁判はじめます』1987童心社 青少年読書感想文コンクール課題図書。『さよならの日のねずみ花火』1995国土社 青少年読書感想文コンクール課題図書、厚生省中央児童福祉審議会推薦文化財。「地雷の村で」「寺子屋」づくり』2003PHP研究所など多数。

M. Senda

●せんだ みつる 1950年、滋賀県生まれ。大阪のデザイン会社を経て1980年「イラストレーションスタジオオアピロード」設立。イラストレーションを中心にポスターやパンフレット等を制作、ロゴマークやパース・キャラクターデザイン等グラフィック全般、広告・エンタテインリアルを中心に活動中。

本の紹介

最近入手した、気になる本・CD・DVD
をご紹介します。

BOOKS

女たちの義経物語

近江国鏡宿傀儡女譚



- 著者／畑裕子
- 発行／サンライズ出版
- 発行日／2015年2月20日
- 価格／1800円＋税

内容／平安時代後期の流行歌である今様を歌う傀儡女(芸人)が弟子に読んで聞かせる手紙の中に、源義経と静御前の悲恋の物語が浮かび上がる。英雄ではなく、人間としての義経らの軌跡を描く。

近江の芭蕉 松尾芭蕉の世界を旅する



- 著者／いかいゆり子
- 発行／サンライズ出版
- 発行日／2015年4月20日
- 価格／1800円＋税
- 内容／松尾芭蕉が近江で詠んだ102句すべてを解説。句碑61基も紹介。

いけるねーシカ肉 おまかせシカ



- 著者／松井賢一
- 発行／農山漁村文化協会
- 発行日／2015年6月5日
- 価格／2100円＋税
- 内容／鹿解体と販売で知られる著者が、捕獲解体のポイントと下処理・加熱法などを伝授。

壊れた仏像直しマス。全4巻 おもいで橋我楽多本舗 全2巻



- 著者／芳家圭二
- 発行／芳文社
- 価格／590円＋税(1冊)
- 内容／「壊れた仏像直しマス。」：天才仏師・英道吉が突然消え、工房を守る決意をした次男・龍之介。仏像のお医者さんである「仏像修復師」を描く再生の物語。
- 「おもいで橋我楽多本舗」：おもしろで橋こえる少女。七穂。ひとりぼっちの彼女を温かく包んでくれたのは、壊れかけた道具たちの優しい声だった。

1冊でわかる滋賀の仏像 文化財鑑賞ハンドブック



- 監修／文化財鑑賞ハンドブック監修会議
- 企画・編集／滋賀県教育委員会事務局文化財保護課
- 発行／サンライズ出版
- 発行日／2015年1月30日
- 価格／1000円＋税
- 内容／滋賀県の主要な仏像を、わかりやすく紹介。

湖国と文化 創刊150号記念別冊 近江人物伝



- 著者／木村至宏
- 発行／公益財団法人滋賀県文化振興事業団
- 発行日／2015年2月11日
- 内容／「湖国と文化」を年間購読した方にプレゼント。

土に埋もれてひかる糞
おわび紙と書と言葉



- 著者／増田洲明
- 発行／池田出版
- 発行日／2006年4月8日
- 価格／3000円＋税
- 内容／廃紙や古紙を集め、自らが漉き直した再生紙を「おわび紙」と名付け、それと心の尊厳を綴った作品集。

心のやわつれ

一心書 山田水雲作品集



- 著者／山田水雲
- 発行／日本心書研究会
- 発行日／2008年5月1日
- 内容／繊細な画と心に響く言葉が印象的。著者は近江八幡市在住の日本画家。

日本の感性が世界を変える
言語生態学的文明論



- 著者／鈴木孝夫
- 発行／新潮社
- 発行日／2014年9月25日
- 価格／1300円＋税
- 内容／言葉と文化、自然と人間の営みに深い思索を重ねてきた著者が語る『日本人の使命』とは？

近所の犬



- 著者／姫野カオルコ
- 発行／幻冬舎
- 発行日／2014年9月20日
- 価格／1300円＋税
- 内容／直木賞受賞「昭和の犬」の第作。もっさり暮らす小説家が、身辺の犬たちを愛でる「犬見」私小説。

イベント
情報

呼吸する巢

～ 大地の恵みとつながって with rimacona

Cafe ネンリン（46号掲載）が2015年5月で一周年を迎えました。

一周年を記念して、京都を拠点に国内外で活躍する音楽ユニットrimacona（リマコナ）のライブが開催されます。

また、Cafe ネンリンの設計者・建築家の大岩剛一さん（P5）によるブータンの豊かな自給自足の暮らしのお話も。

呼吸する地域の巢Cafe ネンリンで、ともに呼吸しながら暖かな時間を共有しませんか？



- 日時：2015年7月5日(日)
open13:30 / start14:00
- 場所：Cafe ネンリン
<http://cafenenrin.tumblr.com/>
滋賀県湖南市菩提寺西6丁目1-29
※駐車場あり
- 入場料：1ドリンク付き 前売り2000円 / 当日2500円 小学生以下無料（ドリンクは付きません）
- 電話予約：0748-74-2667（営業日の水、木、金10:30～17:00）

講演日記

ふくひんさんふくの
ユース

皆様のご支援でたくさんの講演依頼を頂きました。3月～5月の講演をダイジェスト版でお知らせします。



- 日時：3月21日
- 場所：ブータンミュージアム(福井県)
- 講師：森建司
- 演題：「私の幸福感」
- 対象：一般
- 参加：40人

●内容：国連で制定されている「国際幸福デー(3月20日)」を記念して開催された。競争社会がもたらす不平等、経済社会の矛盾点を再確認し、若い人とともに「幸せの道」を考えたいと締めくくった。

執筆者懇談会39

- 日時：3月24日
- 場所：旧大津公会堂 大津グリル
- 参加：8人
- 内容：48号「原点」達人に学ぶ・衣の特集を決定、今後の取材先を検討した。M・O・H Cafe2の報告では、講演内容を振り返り、時間配分の反省をまとめ、次回に期待したいことを話し合った。
- 場所：野洲市市民活動支援センター
- 日時：5月8日
- 野洲生活学校創立37周年記念の集い



- 祝辞：森建司
- 対象：会員
- 参加：約40人
- 内容：同校は、生活者の立場で少しでも地域を良くしたいとの思いで「環境・食の安全」を柱に学習・啓発活動に取り組み、永年の市民活動による成果に敬意を表し、森代表が祝辞を述べた。

滋賀県立大学・市民参加論



- 日時：5月15日
- 場所：滋賀県立大学
- 講師：辻村琴美
- 演題：「編集・取材を通して高める人間性」
- 対象：学生
- 参加：約40人
- 内容：辻村編集長が編集・取材を通して学んだ「人間力」を伝えた。前半はM・O・H通信ができた経緯や編集の仕事について話し、後半はペアになってインタビュー演習を実施。若い力を存分に発揮

講演スケジュール

してほしいとエールを送った。

なでしこファーマーズ総会議演

- 日時：6月19日
- 場所：池田牧場
- 講師：森建司
- 演題：「地産地消」
- 対象：会員

滋賀県立大学・市民参加論

- 日時：7月24日
- 場所：滋賀県立大学
- 講師：森建司
- 演題：「持続可能社会を創る市民の力」
- 対象：学生

社会教育主事講習

- 日時：7月31日
- 場所：金沢大学
- 講師：環人ネット
- 演題：「フアシリテーターの役割」
- 対象：社会人受講生

志村ふくみ展

滋賀県立近代美術館 8月8日(土)～9月23日(水)



志村ふくみ「熨斗目(生絹)」1981
滋賀県立近代美術館蔵

滋賀県立近代美術館では、平成27年8月8日(土)から9月23日(水)まで、企画展「志村ふくみ展—自然と作家と継承—」を開催いたします。

近江八幡市出身の紬織の人間国宝・志村ふくみ(1924～)は、自然の恩恵を大切にしながら制作に取り組んできた作家です。自然界の植物から糸を染めることを「草木の抱く色をいただく」と表現することからも伺えたとおり、自然に対する真摯で純粋な姿勢を常に持ち続けてきました。自然の恵みを素材に、作家の思いとさまざまな工夫や技法を生かしながら制作された紬織作品は、その作品に対峙する我々にも自然の美しさと同時に環境の大切さも語りかけてくれているようです。

当館では、作家が滋賀県出身というゆかりから、平成5年に紬織着物「聖堂」(1992)を収蔵して以来、平成26年度までに着物のほか染め糸、裂類など関連資料を含む170件を収集してきました。日本伝統

工芸展への出品作から制作の過程が分かる資料類まで、件数はもちろん、全体を概観することで作家が歩んで来た制作の道のりをたどることができる非常に充実したコレクションと行うことができるでしょう。

本展では、このような滋賀県立近代美術館の館蔵品を中心に、近年の新作などを含めた約60点を展示、作家が自然との関わりの中で制作を行って来た紬織作品について、その思想と制作技法を検証します。そして近年特に作家が力を入れて取り組んでいる次世代への技術伝承について、ワークショップなども開催しながら紹介します。

本展を通して志村作品の魅力を再認識して頂くと同時に、自然と人の関わりについて考察して頂く機会ともなれば幸いです。

※本展覧会では会期の前期(8月8日～8月30日)・後期(9月1日～9月23日)で大幅な展示替えを行います。

※来館者の方により充実した鑑賞を行って頂くための「リピーター割引」を実施します。会期中2回目以降ご来館の場合、本展の使用済観覧券のご提示により以下の観覧料で展覧会をご覧頂けます(矢印以降が割引料金)。

- 一般(大人)：1000円→500円
- 高校生・大学生：650円→300円
- 小学生・中学生：450円→200円

- ★当割引の取り扱いはいは当館総合受付のみ。
- ★当割引の適用は1枚につきお1人。
- ★他の割引との併用は出来ません。
- ★当割引料金は持参の使用済観覧券と同じ券種のもので適用されます。

滋賀県立近代美術館

滋賀県大津市瀬田南大萱町1740-1
TEL.077-543-2111
<http://www.shiga-kinbi.jp>

参加しました！

対話型鑑賞会2015開催in数寄和大津



5月1日、ギャラリー数寄和大津で対話型鑑賞会が開かれました。

対話型鑑賞会とは、作品である絵と自分、また一緒に見て

いる人たちと自分が対話すること。まず一つの作品をじっくり眺め、次に一緒に見ている人たちでそれぞれが感じた見え方を共有します。共有することで色んな見え方、

考え方、感じ方が増え、最初に自分が感じた見え方に変化が生まれます。

この日参加したのは7人。「人の感じ方を聞くことで、こういう見方もあるんだなと気づかされ、新しい感覚を体験することができた」と好評でした。



じっくり眺めて作品と対話

■数寄和大津の問合せ先は1ページへ

参加しました！

和ムラサキ染め体験in奥永源寺



古くから高貴な色として親しまれてきた淡い紫色。この美しい色は「和ムラサキ(絶滅危惧種)」の根っこから採ることができます。ワークショップの主催は奥永源寺地域おこし協力隊の前川真司さん。前川さんが大切に育てた和ムラサキを使って根っこを切るところから体験します。

万葉集にも詠まれる和ムラサキの歴史や、木地師ゆかりの地である奥永源寺の紹介に耳を傾けながら、参加者はビー玉や輪ゴムを使って思い思いに絞り模様を作り、体験を楽しみました。



紫根の液に布を浸します(上)
きれいな絞り模様(右)



■奥永源寺 地域おこし協力隊
<https://www.facebook.com/okueigenji>

小堀さん家の にこやか

©サトウチユウコ



NPO法人環人ネットメンバー活躍中! 「逢坂の関 行き交う人々 思い出の古写真展」開催

4月26日から5月31日まで、大津百町館にて古写真を使ったイベントが開催され、環人ネットメンバーが企画に加わりました。



かつての暮らしやまち並みが写っている古写真展をきっかけに、地域の人々が暮らしの思い出を語り合い、まちの記録や魅力が再発見され、地域活性化することを目的とし、関の蟬丸神社のかつての例祭などが紹介されました。

こんな見つけた 妖精の火香 (有機紅茶)

愛媛県内子町で育った「べにふうき」と呼ばれる品種の国産紅茶。まろやかな茶葉の旨みと、のどの奥までふわっと広がる渋みの余韻を楽しんで。有機JAS認証。

■問合せ
茶工房 二の楽
大阪府茨木市鮎川3丁目15-19
TEL.072-634-5569
<http://ninoraku.shop-pro.jp/>



マンガ作家紹介

サトウチユウコ

本誌の左下をバラバラして下さい。何かが動きます。左の4コママンガも。

●郷内ユウコ

色鉛筆が好きで、マンガやイラストなどを作成している。

「道草」天気が良い日は、道草するペンギンもいるかもしれません。

「循環型社会を目指す～M・O・H通信～」の発行に当たって

代表 森 建司

20世紀型社会は経済至上主義の時代であった。科学技術の進歩とそれに伴う工業や流通の発展は、世界的なスケールで人々に物による恩恵をもたらしたが、同時にバランスのとれた自然との共生社会を破壊した。経済至上主義とは物の豊かさを最高の幸せとして捉え、その対極にあるものの価値をほとんど消し去ろうとするものである。人々の価値観を情報操作で画一化して、特定のものに集中させようとするマーケット戦略は個人の人生観、社会観にまで侵入し、その独自性、不可侵性まで奪って行った。このことによって人々は哲学的な意味の自己をなくしてしまった。

今こそ新しい時代として循環型社会を作ろうとしているわれわれは、自己を証明する心とか思いを取り戻さなければならない。死生観や人生観、先祖や子孫、生涯をかける志、自己を自己らしく生き抜くための人生哲学など。そしてそれは自然との共生社会を目指すものであり、人としての真の生き様を問うものであらねばならない。

この実現のために
「循環型社会を目指す～M・O・H通信～」を発行する。

《 M・O・H通信概要 》

■目的

- (1) 循環型社会構築に向けた意識改革
- (2) 浪費型社会念の脱却
- (3) 人生哲学を学ぶ

■事業

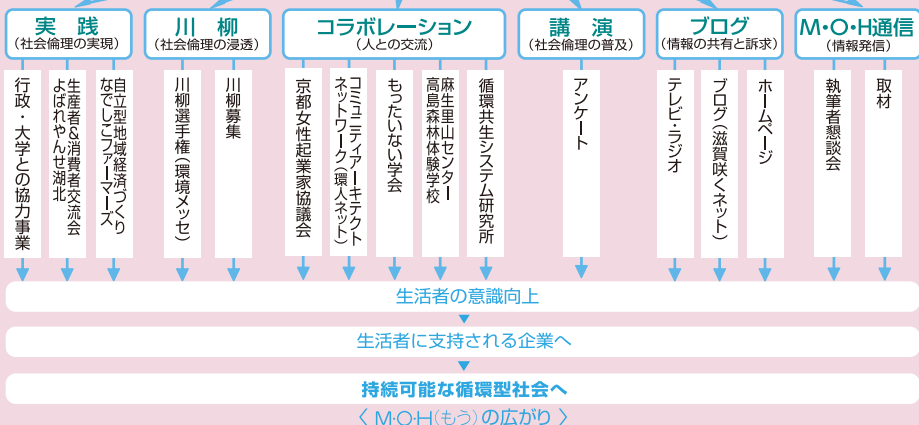
- (1) 通信の発行及び出版
- (2) 講演会、勉強会、シンポジウムなどイベントの開催

■事務局

〒526-0111
滋賀県長浜市
川道町759-3
循環型社会システム研究所
TEL.0749-72-5277
FAX.0749-72-8681
e-mail:tsujimura@shingoshu.co.jp
代表:森 建司
担当:つじむら ことみ
上岡 瞳

[M・O・Hコンセプトシート]

M・O・H=循環型社会をめざす言葉
(もったいない・おかげさま・ほどほどに)



読者の声

★47号届きました。とても綺麗な画像で、布の組織がはっきりわかります。メンバー各々の得意技がつながり、今後の活動に一層のお力をいただきました。おうちごと・こん夢つむぎ 澤とし江

★三日月知事や藤井市長インタビュー記事、興味深く拝読しました。そして美味いもの特集。この次長浜を訪れた時にはあれもこれも食べてみたい。アウグスブルク 原修子

★幸せはものではなく時間かなくて最近いろんな方とお話する中で思いますが、大切な人と一緒にいるひととき。つらいときでも一人でないと感じるとき。その瞬間の今を幸せと感じられる自分になりたいです。

草津市 高屋 佳典

★「未来へのラプソディ」を拝読しました。水前寺清子は「二百六十五歩のマーチ」で、幸せは歩いてこない、だから歩いて行くなだね、と歌っています。三歩進んで四歩下がったり、三歩進んで更に二歩進む、ということもありましょ。何を幸福というのか人それぞれですが「健康で長生きする」ことに尽きると思っています。

京都市 上野 孝司

★46号を友人に借りて読みました。もう一度沖島について読みたいと思いました。

長浜市 片桐 紀江

★大変楽しく読んで、参考にしておりま

す。守山市 石田 和正

★届いた通信を友人等に差し上げますのに喜んで頂いております。

大津市 小野 美代子

★農村地で里山整備のボランティアをしております。「棚田の保全活動」が心に残りました。

四日市市 野路 秀

★M・O・Hの考えを持った社員を増やすことが、人や環境に優しい会社や社会をつくり、結果として強固な会社となる王道なのでしょうね。御社を見てそう感じます。

日野町 山本 剛広

M・O・H仲間

♪うしどしの 母に見せたい M・O・H通信
♪おし座の 兄も読むかな M・O・H通信
大坂市 難波 万里子

♪もったいないを 死語にしたら 勿体ない
♪支えられ 支える暮らし おかげさま

♪我が家訓「ほどほど」にして 今があり

西宮市 小西 寛信

♪若者よ いい国つくるう もったいない

瀬戸市 丸岡 正彦

♪たいたいと 無事な姿 ひと安心

長浜市 伊香の退屈男

♪ほどほどに 過ごしては もったいない

長浜市 藍植 男

編集光記

- 衣のことを知らなかったなあ。今しか聞けない達人の声に耳を傾けました。過去には感謝、現在には信頼・未来には希望です……こと
- 洋服でその日の気分が変わったりするから不思議。好きな服を着ていると気分も明るくなる。今年の夏は高島のステテコで寝てみよう♪……ひとみ
- 初めてみた長浜ビロードのハンドバッグ、その気品のある美しさに一目惚れ。あんなに素敵なものがもう作られないことがないなんて、もったいない! ……あや
- 長浜ビロード・正藍染め・シャツづくり……職人さんってほんまかっこいいなあ! ……なおこ

《次号予定》

2015年9月発行予定

■特集：「くら・住」

- M・O・Hな店／「二人のアーティストが手がける古民家ギャラリーショップ」Polarsta
- 対談／「琵琶湖とともに生きる」琵琶湖汽船(株)川戸良幸代表取締役社長＋森建司
- 座談会／「家づくり」
- 寄稿／「コミュニティ難民」アサダワタル
- 寄稿／「しがのええもん」
- レポート／ソーシャルファームジャパン サミット in びわこ
- 連載／通常通り

※敬称略、予告なく変更いたします

《M・O・H通信》受付中!

あなたも「M・O・H通信」を読んでみませんか。特典として、M・O・H通信、講演会のご案内をいたします。あなたの活動やこの通信についての、ご意見もお聞かせください。

fax (あれば)、e-mailアドレス (あれば)、心に残った一言をご記入の上、お申し込みください。M・O・H通信をお送りします。申込書をfax、郵送、mailでお送りください。

お名前、年齢、郵便番号、住所、電話番号、

《M・O・H通信》申込書 0749-72-8681

フリガナ		年齢	希望冊数
お名前			
住所	〒		
電話	FAX	メールアドレス	
あなたの心に残った一言、M・O・Hせんりゅうをお書きください。			

※記入いただいた内容については、目的以外のことに使用または転用はいたしません。

キリトリ線

M・O・H通信 Vol.48(通巻49号) 2015年6月20日発行 発行部数6,000部

●編集・発行/新江州(株)

循環型社会システム研究所
M・O・H通信編集局

代表 森 建司
編集長 つじむら ことみ
編集 上岡 瞳
取材 山崎 彩
松田 千春

デザイン 伊達デザイン室
写真 辻村写真事務所
鵜飼 修

表紙 辻村写真事務所
印刷 ブランセル
ホームページ ブランセル

●創刊/2003年3月度

●執筆者懇談会

内藤 正明	木村 至宏
嘉田 由紀子	小林 隆彰
海東 英和	山口 美知子
今関 信子	岡部 達平
末永 國紀	豊田 一美
花田 真理子	熊谷 英彦
弘中 史子	藤井 絢子
山崎 隆	仁連 孝昭
三山 元暎	今森 光彦
加藤 みゆき	川戸 良幸
清水 安治	鵜飼 修
森 孝之	フライアンウリアムズ
堀越 昌子	中川 善雄
結城 美枝子	古田 紀子
井上 昌幸	
徳永 拓美	(順不同・敬称略)

●ご協力

滋賀県	滋賀県立大学
琵琶湖環境科学研究センター	近江環人地域再生学座
もったいない学会	環人ネット
循環共生社会システム研究所	野洲生活学校
麻生里山センター	

(順不同)

●支援

新江州(株)
〒526-0111 滋賀県長浜市川道町759-3
TEL.0749-72-5277 FAX.0749-72-8681

★ブログ★
<http://moh.shiga-saku.net/>

★ホームページ★
<http://www.mohmoh.jp/>



M・O・H図書館

検索 

※記事中での写真・本文につきましては、無断転載を禁じます。